令和８年度

全国学力・学習状況調査
恵庭市の調査結果（報告）

恵庭市教育委員会

令和８年10月

【目次】

1. 調査の概要 …… 1

2. 教科に関する調査
（1） 小学校国語 …… 3
（2） 小学校算数 …… 6
（3） 中学校国語 …… 9
（4） 中学校数学 ……12
（5） 中学校英語 ……15

3. 質問調査
（1） 児童生徒質問 ……19
（2） 学校質問 ……24

総評 ……29

1．調査の概要

（1）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る	学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる	そのような取組を通じて、教育に関する組織的な検証改善サイクルを確立する

（2）調査の対象

○国、公・私立学校の小学校第６学年、中学校第３学年　原則として全児童生徒

（3）調査の内容

○教科に関する調査〔国語、算数･数学、英語〕

◆ 国語、算数･数学は、冊子を用いた筆記方式

◆ 中学校英語は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム(MEXCBT)によるオンライン方式

次の①と②を一体的に問う調査問題

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識･技能等

② 知識･技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価･改善する力等

○質問調査〔生活習慣や学習環境等に関する項目〕

① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的･物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

（4）調査実施日

① 小学校

◆ 国語、算数　：４月 23 日(木)

◆ 児童質問調査：４月 24 日(金)～５月８日(金)のうち１日（学校ごとに指定）オンライン方式

② 中学校

◆ 国語、数学　：４月 23 日(木)

◆ 英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」・生徒質問調査
：４月 20 日(月)～４月 23 日(木)のうち１日（学校ごとに指定）オンライン方式

◆ 英語「話すこと」
：４月 24 日(金)、27 日(月)　４月 28 日(火)～５月 29 日(金)のうち１日オンライン方式

（5）調査を受けた児童･生徒数

単位（人）	小学校６年生		中学校３年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
恵庭市	562	561	528	529	511
北海道（公立）	33,169	33,171	32,596	32,580	31,033
全　国（公立）	922,411	922,778	841,873	842,491	804,498

（6）調査結果の解釈に関する留意事項

全国学力･学習状況調査の設問は、各教科の全ての領域や内容を網羅しているものではありません。したがって、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。

（7）調査結果の掲載方法

「教科に関する調査」の平均正答率の数値については、出題される問題の難易度が年度ごとに変動するため、単純に比較することはできません。また、他市町村との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、これまで同様公表せず、「記号」や「文言」で表記します。内容、領域別の結果、経年変化については、全国比を用いたグラフで表記します。

なお、中学校英語の IRT スコアについては、客観的なデータとして学力の経年変化を把握することができることから、数値を公表することとし、今後、CBT 調査で行われる教科については、IRT スコア・IRT バンドを掲載し、学力の経年変化も見とれる報告書とします。

「質問調査」（生活習慣や学習環境等に関する項目）の結果については、回答率を表示します。

【全国･全道の平均正答率の比較】

全国･全道平均とのポイント差	記号	文言
+5 ポイント以上	△	上回る
+2 ポイント以上 +5 ポイント未満	◇	やや上回る
+2 ポイント未満 −2 ポイント未満	≒	ほぼ同程度
−2 ポイント以下 −5 ポイント未満	◆	やや下回る
−5 ポイント以下	▼	下回る

【市の正答率】

正答率	記号	文言
80%以上	◎	相当できている
60%～79%	○	
50%～59%	●	
49%以下	・	課題がある

IRT：児童生徒の正答･誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。項目反応理論（Item Response Theory）

国際的な学力調査(PISA、TIMSS など)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFL など)で採用されているテスト理論であり、異なる問題から採用される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できます。

結果については、従来のような全ての問題の正答数・正答率ではなく、IRT に基づいて算出された IRT スコア・IRT バンドで公表されています。

※IRT スコアは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。

※IRT バンドは、IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったものであり、3 を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。

※IRT スコア・IRT バンドは、難易度の高い問題に正対していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

IRT バンド	1	2	3	4	5
IRT スコア	～350	350～450	450～550	550～650	650～

2．教科に関する調査

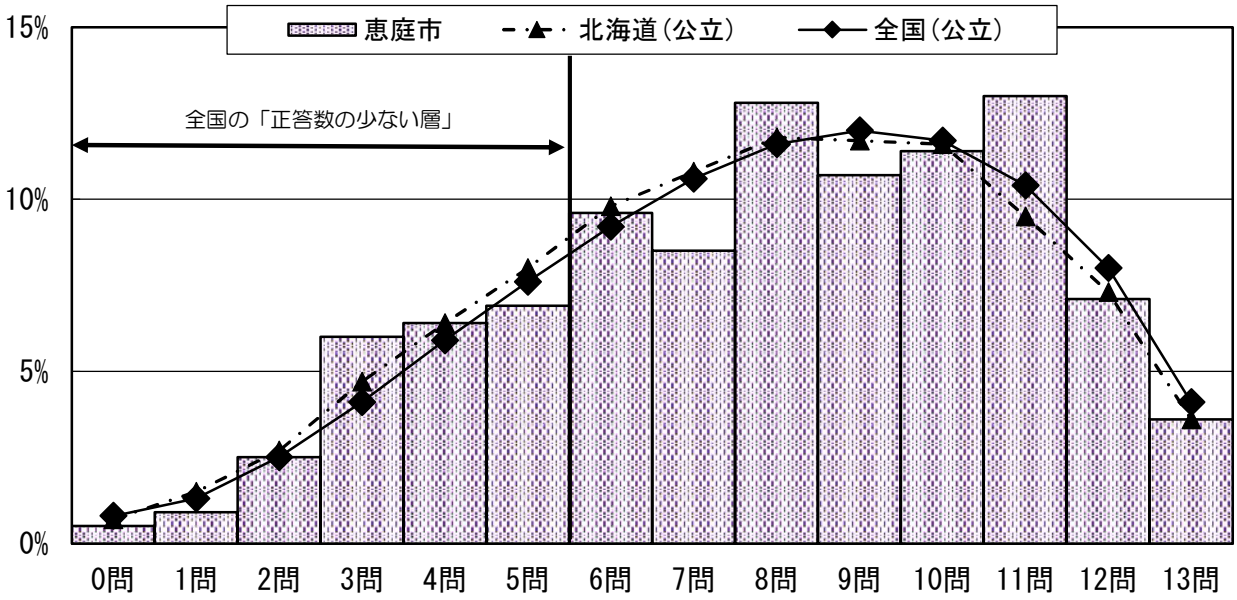
（1）小学校国語

【北海道平均正答率・全国平均正答率と恵庭市小学校平均正答率との比較】

教科	北海道(公立) 平均正答率	恵庭市 北海道との比較	全国(公立) 平均正答率	恵庭市 全国との比較
国語	59.6%	≒	60.9%	≒
	R7	≒	R7	≒
	R6	≒	R6	≒
	R5	≒	R5	≒

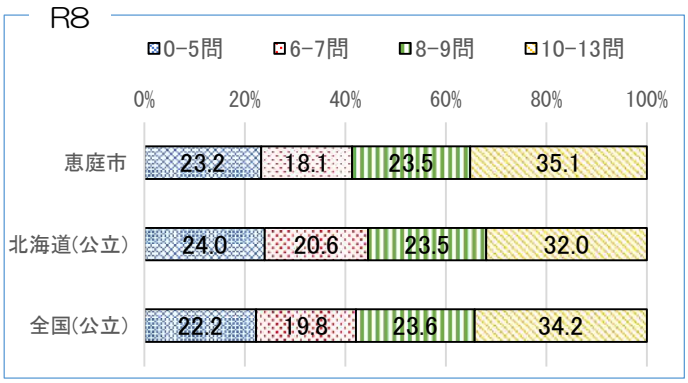
北海道、全国との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

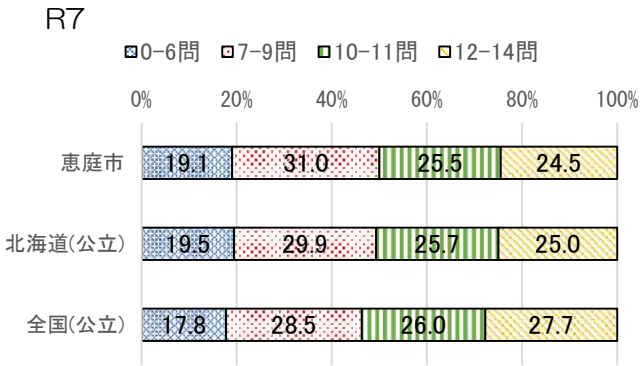
【正答数の分布状況】



※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

【正答数の層分布（全国四分位）】





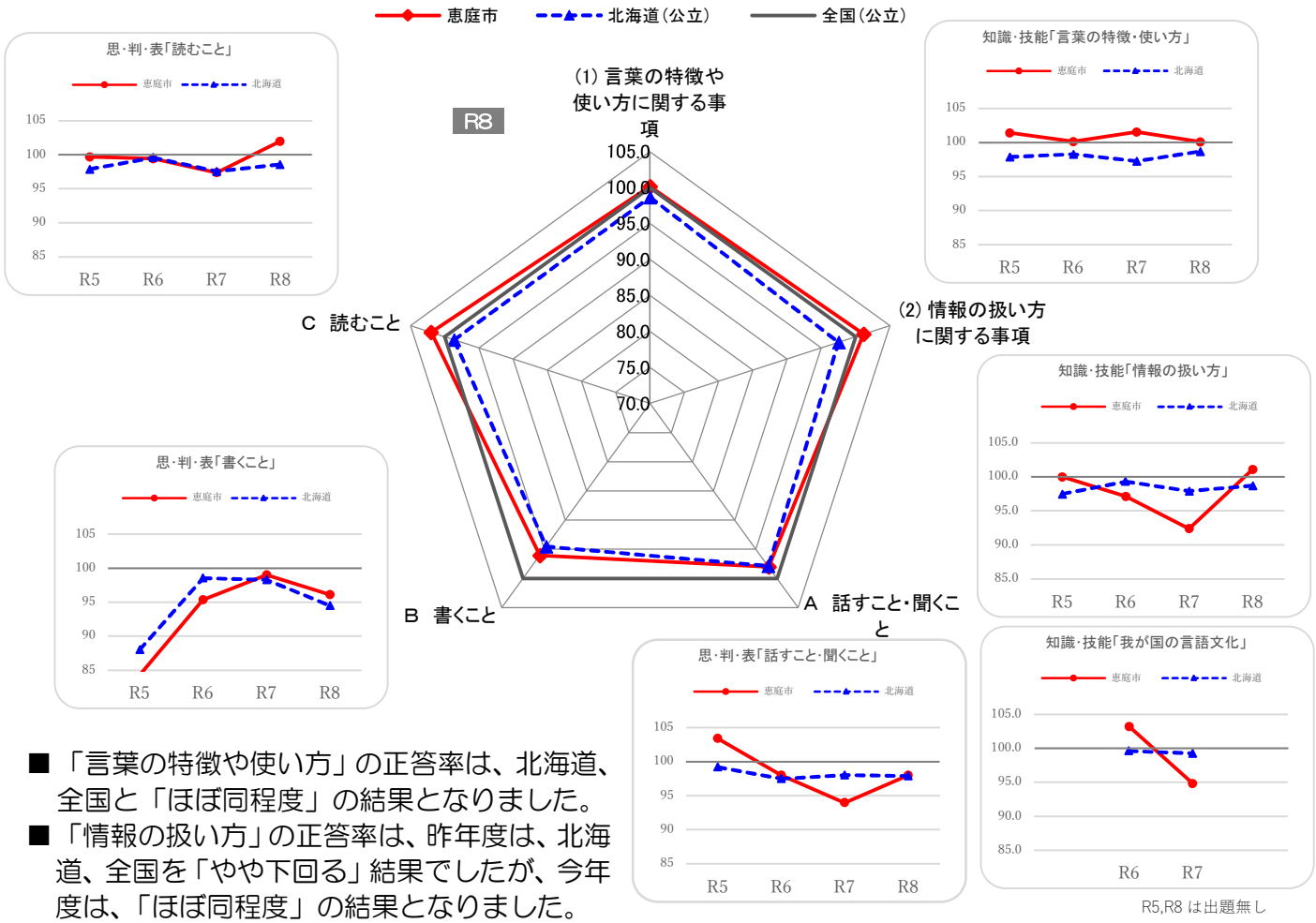
■ 平均正答率は、北海道、全国と比較して、昨年度同様「≒ほぼ同程度」という結果でした。
■ 正答数の少ない層の割合の全国差は、+1.0%、正答数の多い層の割合は、全国を0.9%上回りました。

【学習指導要領の内容別、問題形式別の平均正答率の状況】　小学校国語

分類		区分	全13問	恵庭市平均正答率	北海道(公立)平均正答率	全道と市内の比較	R7全道比較	全国(公立)平均正答率	全国と市内の比較	R7全国比較
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	○	65.9%	≒	◇	66.8%	≒	≒
		(2)情報の扱い方に関する事項	2	●	51.0%	≒	◆	52.3%	≒	◆
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0				◆			◆
	思考力,判断力,表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	○	64.4%	≒	◆	65.8%	≒	◆
		B 書くこと	2	・	43.2%	≒	≒	45.7%	≒	≒
		C 読むこと	2	○	65.0%	◇	≒	65.9%	≒	≒
問題形式		選択式	9	○	60.4%	≒	≒	61.9%	≒	◆
		短答式	2	○	62.3%	◇	◇	62.6%	◇	≒
		記述	2	●	53.4%	◇	≒	54.9%	◇	≒

恵庭市の正答率　◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国、道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

全国比「全国平均正答率を100としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ



■「言葉の特徴や使い方」の正答率は、北海道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「情報の扱い方」の正答率は、昨年度は、北海道、全国を「やや下回る」結果でしたが、今年度は、「ほぼ同程度」の結果となりました。

R5,R8 は出題無し

■「話すこと・聞くこと」の正答率は、昨年度は、北海道、全国を「やや下回る」結果でしたが、今年度は、「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「書くこと」の正答率は、北海道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「読むこと」の正答率は、北海道を「やや上回る」、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。

【問題別集計結果】　小学校国語

恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　道、国との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
二イ	【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	短答	●	46.7%	◇	45.2%	△
			無解答率→		3.2%	6.2%	-3.0	6.6%	-3.4
三(2)	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	読むこと	記述	◎	76.3%	△	76.4%	△
			無解答率→		10.3%	15.4%	-5.1	15.6%	-5.3

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
一(1)	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	選択	●	59.8%	◆	60.2%	◆
			無解答率→		0.2%	0.4%	-0.2	0.6%	-0.4
一(3)	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	ことばの特徴や使い方に関する事項	選択	○	63.8%	≒	65.2%	◆
			無解答率→		0.4%	0.5%	-0.1	0.8%	-0.4
二一	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	書くこと	選択	●	55.9%	≒	57.9%	◆
			無解答率→		0.4%	0.6%	-0.2	0.8%	-0.4
三(1)	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	読むこと	選択	●	53.8%	≒	55.5%	◆
			無解答率→		0.9%	2.5%	-1.6	3.3%	-2.4

上記問題以外で、無解答率が 10%以上になった問題　なし

＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。13 問全てで全国平均より低くなっています。(平均 1.8%)

具体的な設問例　大問３三（2）

三　林さんは、【文章】を読んで、自分の考えをまとめるために、同じ文章を読んだ小川さんと話し合うことにしました。次の【話し合いの様子の一部】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

林さん　私は「『苦手』と『嫌い』」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の（――― 部アを示しながら）ここの部分が特に考えさせられたんだ。

小川さん　どんなことを考えたの。

林さん　ここの部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると［　　］ということがあるよ。

小川さん　なるほど。文章と自分の経験を結び付けて考えたんだね。

林さん　そうなんだ。この文章を読んで、これまでの自分にはない考えだったけれど、なるほどと思ったよ。小川さんは、どんなことを考えたの。

小川さん　ぼくは、この文章を読んで、筆者が書いていることと少しちがうことを考えたんだ。「苦手だからどうしても嫌い」ということもあるだろうし、「得意だけど嫌い」ということもあるんじゃないかなと思うんだけど、どう思う。

～（話し合いが続く）～

【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けて書く。

〈条件〉

○【文章】を読んで、考えたことを書くこと。
○【文章】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○あなたの経験を書くこと。

正答例	わたしは「『苦手でも好きなこと』がある」という筆者の言葉に共感しました。わたしも走ることが苦手で運動会がいやだなと思っていたけれど、休み時間におにごっこをするのは大好きです。これからは何でもきらいだと思わずに、どうすれば好きになれるかを考えたいです。

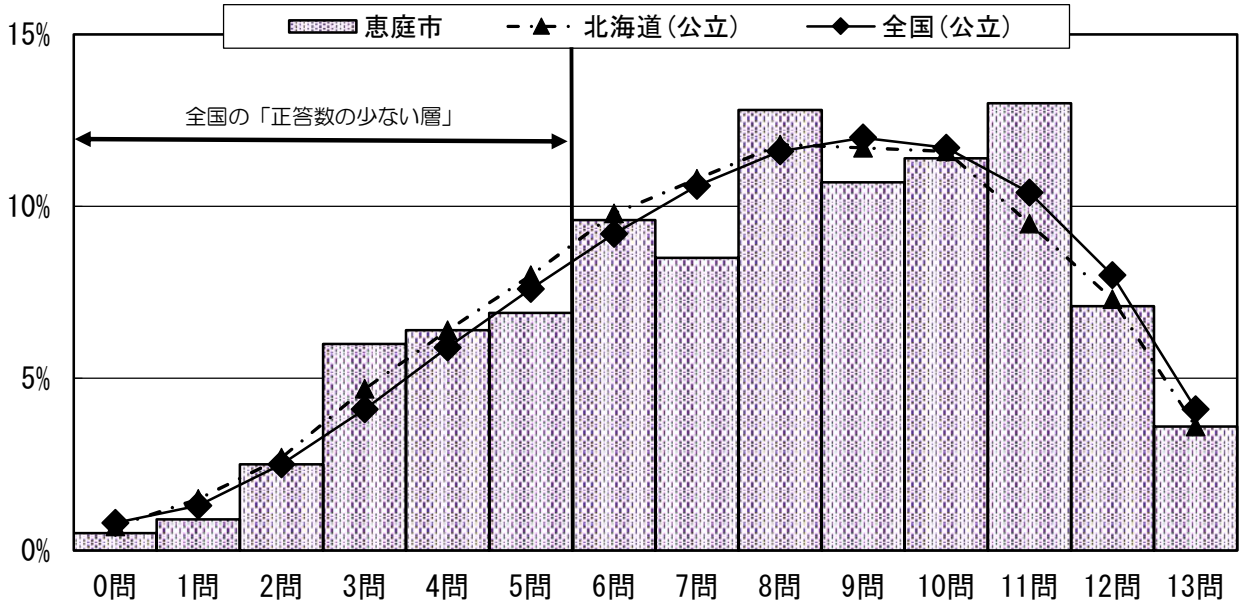
（2）小学校算数

【北海道平均正答率・全国平均正答率と恵庭市小学校平均正答率との比較】

教科	北海道(公立) 平均正答率	恵庭市 北海道との比較	全国(公立) 平均正答率	恵庭市 全国との比較
算数	53.6%	≒	56.4%	◆
	R7	≒	R7	◆
	R6	≒	R6	◆
	R5	≒	R5	◆

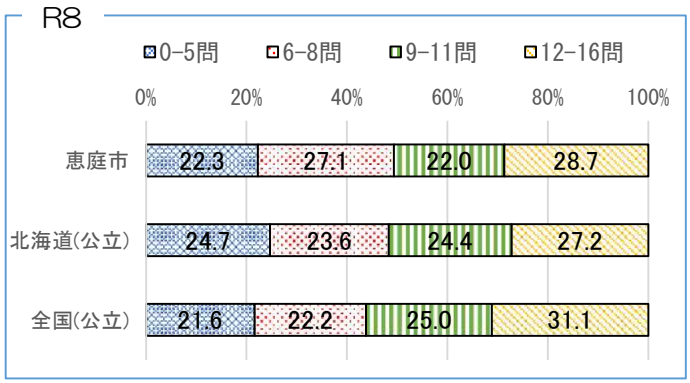
北海道、全国との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

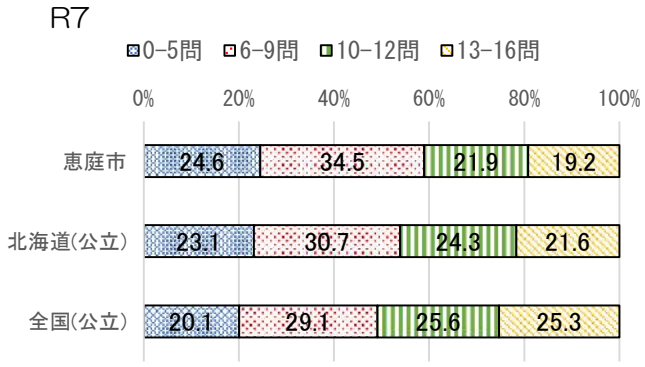
【正答数の分布状況】



※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

【正答数ごとの層分布（全国四分位）】





■ 平均正答率は、北海道と比較して「≒ほぼ同程度」、全国と比較して「◆やや下回る」という結果でした。

■ 正答数の少ない層の割合の全国差は、+0.7%、正答数の多い層の割合の全国差は、-2.4%で、昨年度と比べてその差は小さくなっています。

【学習指導要領の領域別、問題形式別の平均正答率の状況】　小学校算数

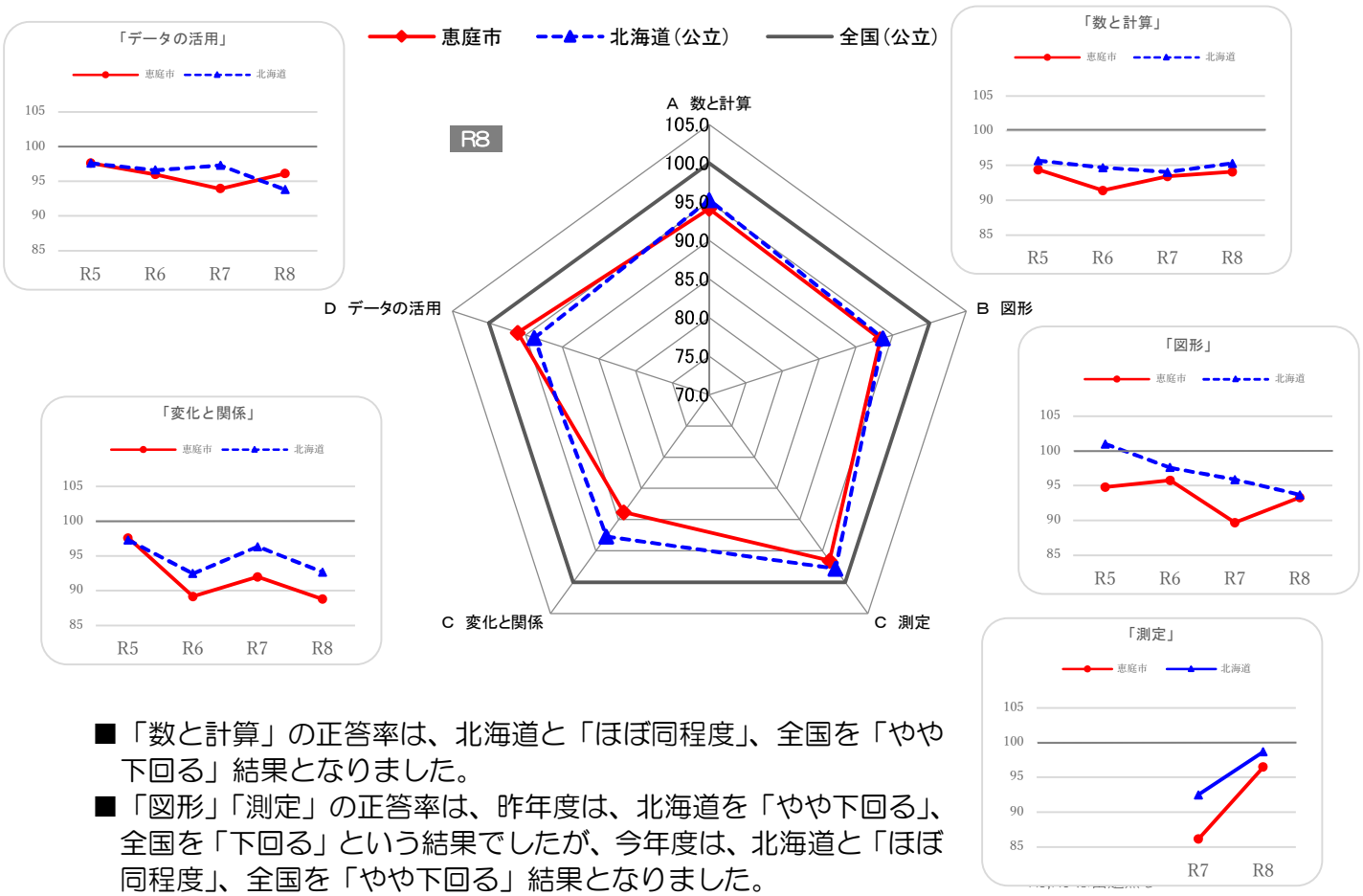
分類	区分	全16問	恵庭市平均正答率	北海道(公立)平均正答率	全道と市内の比較	R7全道比較	全国(公立)平均正答率	全国と市内の比較	R7全国比較
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	●	58.2%	≒	≒	61.1%	◆	◆
	B 図形	4	●	51.8%	≒	◆	55.3%	◆	▼
	C 測定	1	○	76.4%	≒	◆	78.1%	◆	▼
	C 変化と関係	3	・	38.1%	≒	◆	41.1%	◆	◆
	D データの活用	4	・	45.6%	≒	◆	48.6%	≒	◆
評価の観点	知識技能	12	●	57.4%	≒	≒	60.1%	◆	◆
	思考判断表現	4	・	42.5%	≒	◆	45.4%	◆	◆
問題形式	選択式	5	●	54.4%	≒	◆	56.0%	◆	◆
	短答式	8	●	56.6%	≒	≒	59.7%	◆	◆
	記述式	3	・	44.5%	≒	◆	48.5%	◆	▼

※「学習指導要領の領域」については、１つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国、道との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

R5R6 は出題無し

全国比「全国平均正答率を 100 としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ



■「数と計算」の正答率は、北海道と「ほぼ同程度」、全国を「やや下回る」結果となりました。

■「図形」「測定」の正答率は、昨年度は、北海道を「やや下回る」、全国を「下回る」という結果でしたが、今年度は、北海道と「ほぼ同程度」、全国を「やや下回る」結果となりました。

■「変化と関係」の正答率は、昨年度は、北海道を「やや下回る」でしたが、本年度は「ほぼ同程度」となり、全国を「やや下回る」結果となりました。

■「データの活用」の正答率は、昨年度は、北海道、全国を「やや下回る」結果でしたが、今年度は、「ほぼ同程度」の結果となりました。

【問題別集計結果】　小学校算数

恵庭市の正答率 ◎80%以上 ○60%～79% ●50%～59% ・49%以下　　道、国との比較 △上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
4 (1)	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表１と表２の中から書く	示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる	データの活用	記述	●	53.3%	△	56.2%	◇
			無解答率→		3.2%	3.7%	-0.5.	3.7%	-0.5

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

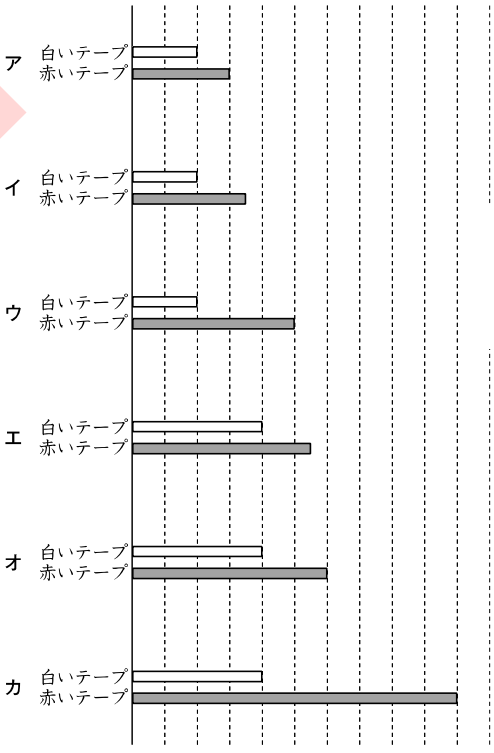
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
1 (2)	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	図形	短答	●	62.3%	◆	63.0%	◆
			無解答率→		1.2%	1.8%	-0.6	1.7%	-0.5
1 (3)	１立方センチメートルの立方体を３６個使ってできた直方体の体積を書く	体積の意味について理解しているかどうかをみる	図形	短答	・	38.3%	◆	40.1%	◆
			無解答率→		3.2%	4.7%	-1.5	4.2%	-1.0
1 (4)	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	数と計算 図形 データの活用	記述	・	40.2%	◆	45.2%	▼
			無解答率→		4.8%	6.6%	-1.8	5.8%	-1.0
2 (2)	イシガメ１４匹が動物園全体のカメの数の２０%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く	百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる	変化と関係	短答	・	47.5%	≒	53.1%	◆
			無解答率→		5.7%	8.7%	-3.0	7.2%	-1.5
2 (4)	赤いテープの長さが、白いテープの長さの１．５倍になっている図を二つ選ぶ	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	数と計算 変化と関係	選択	・	30.4%	◆	34.2%	▼
			無解答率→		0.9%	1.4%	-0.5	1.5%	-0.6
3 (2)	ニつの小数のどちらが５に近いかを判断するために、6.37-5 と 5-3.76 を計算する	整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる	数と計算	短答	●	52.5%	≒	58.1%	◆
			無解答率→		2.0%	2.6%	-0.6	2.2%	-0.2

上記問題以外で、無解答率が 10%以上になった問題

なし

＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。16 中 15 問で全国平均より低く、1 問が同数値という取組状況でした。(平均 2.5%)

具体的な設問例
大問２（4）



赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図を２つ選ぶ。

正答	ア・オ

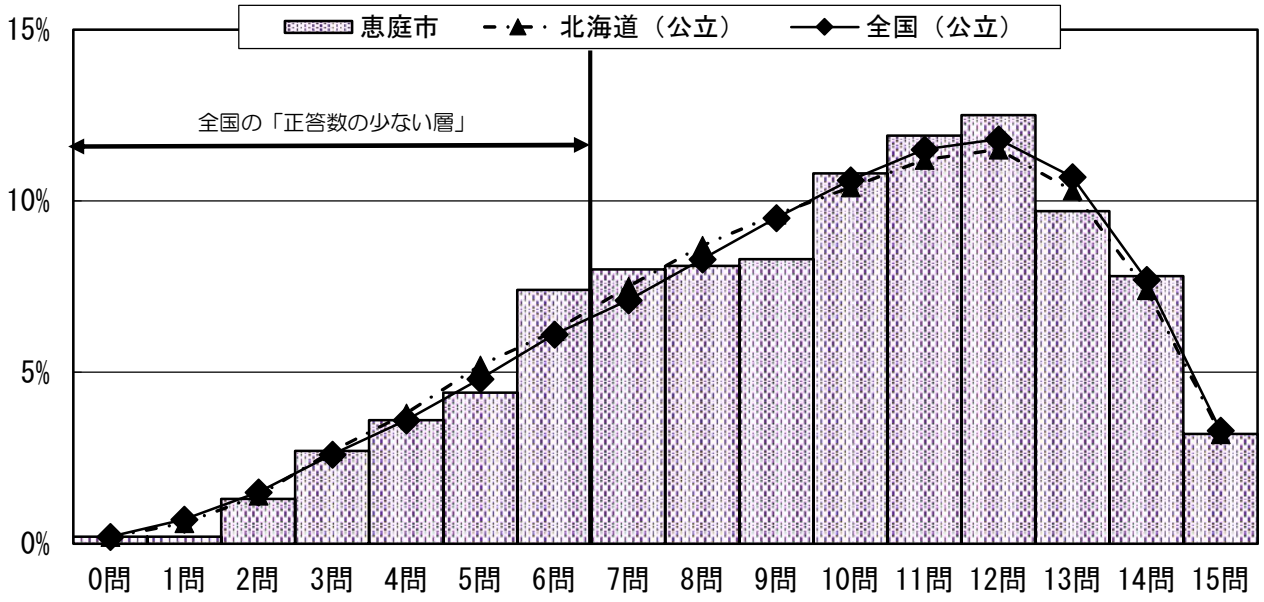
（3）中学校国語

【北海道平均正答率・全国平均正答率と恵庭市中学校平均正答率との比較】

教科	北海道(公立) 平均正答率	恵庭市 北海道との比較	全国(公立) 平均正答率	恵庭市 全国との比較
国語	63.3%	≒	63.9%	≒
	R7	◆	R7	◆
	R6	≒	R6	≒
	R5	◇	R5	≒

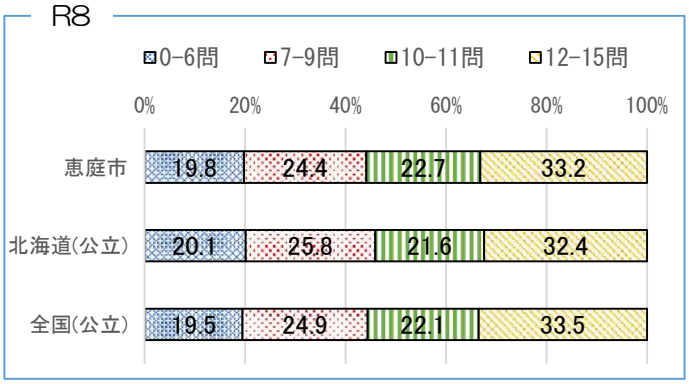
北海道、全国との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

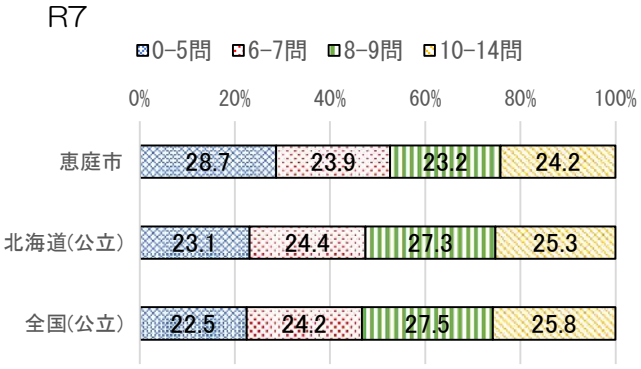
【正答数の分布状況】



※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

【正答数ごとの層分布（全国四分位）】





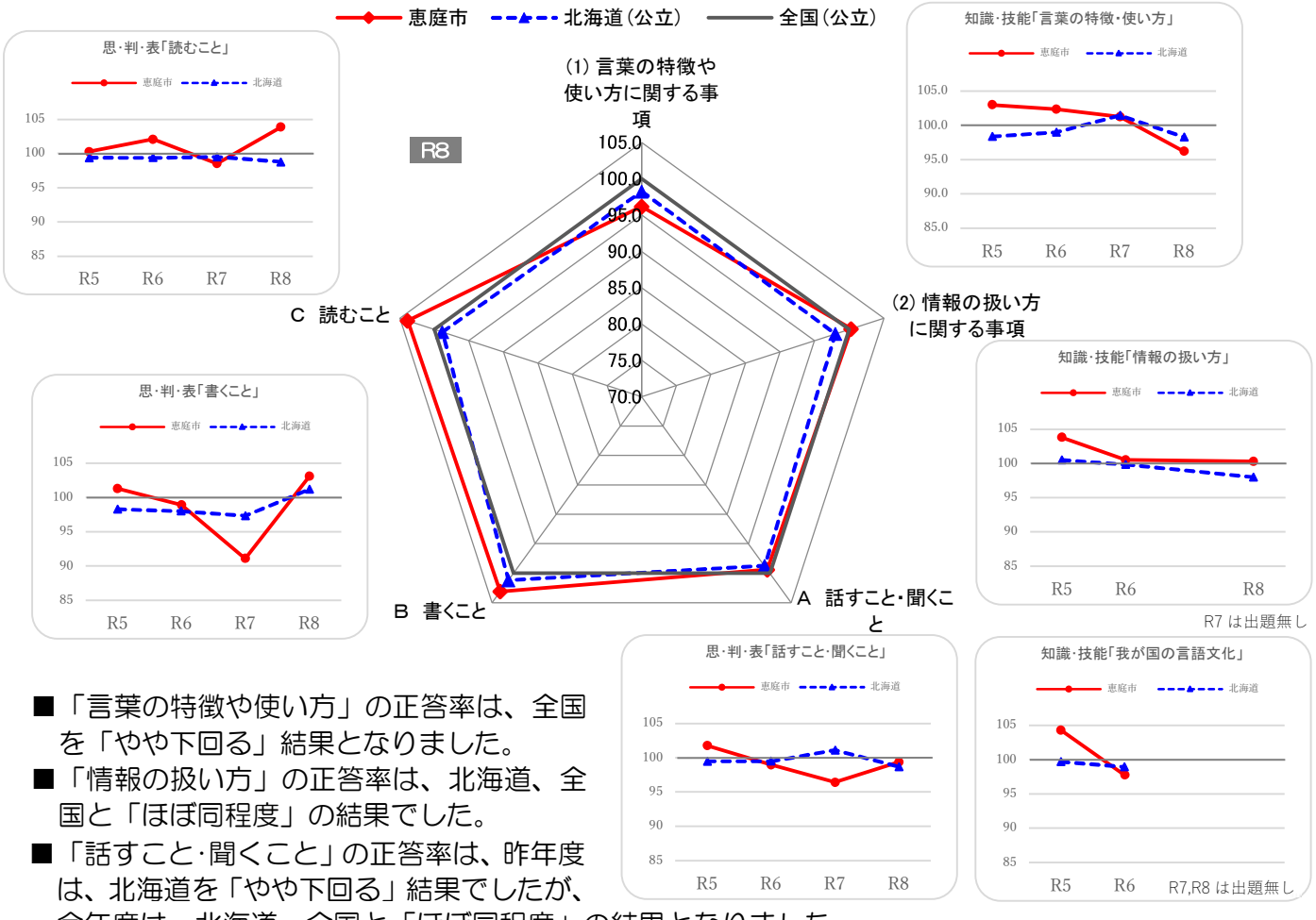
■ 平均正答率は、昨年度は、北海道、全国と比較して「◆やや下回る」という結果でしたが、今年度は、北海道、全国と「≒ほぼ同程度」という結果になりました。
■ 正答数の少ない層の割合の全国差は、+0.3%、正答数の多い層の割合の全国差は、-0.3%と、ほぼ同じ割合となりました。

【学習指導要領の内容別、問題形式別の平均正答率の状況】　中学校国語

分類		区分	全15問	恵庭市 平均正答率	北海道(公立) 平均正答率	全道と市内の比較	R7全道比較	全国(公立) 平均正答率	全国と市内の比較	R7全国比較
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	○	61.9%	≒	≒	63.0%	◆	≒
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	○	69.0%	≒		70.4%	≒	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0							
	思考力,判断力,表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	○	63.1%	≒	◆	63.9%	≒	≒
		B 書くこと	3	○	68.2%	≒	◆	67.4%	◇	◆
		C 読むこと	3	○	59.0%	◇	≒	59.7%	◇	≒
問題形式		選択式	9	○	71.8%	≒	≒	72.7%	≒	≒
		短答式	3	●	55.5%	≒	◆	55.8%	≒	◆
		記述式	3	・	45.5%	◇	≒	45.5%	◇	◆

恵庭市の正答率　◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国、道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

全国比「全国平均正答率を100としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ



■「言葉の特徴や使い方」の正答率は、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「情報の扱い方」の正答率は、北海道、全国と「ほぼ同程度」の結果でした。
■「話すこと･聞くこと」の正答率は、昨年度は、北海道を「やや下回る」結果でしたが、今年度は、北海道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「書くこと」の正答率は、昨年度は、北海道、全国を「やや下回る」結果でしたが、今年度は、北海道と「ほぼ同程度」、全国を「やや上回る」結果となりました。
■「読むこと」の正答率は、昨年度は、北海道、全国と「ほぼ同程度」の結果でしたが、今年度は、北海道、全国を「やや上回る」結果となりました。

【問題別集計結果】　中学校国語

恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　道、国との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
2 一	発言について説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	選択	○	69.3%	◇	68.5%	◇
			無解答率→		0.0%	0.2%	-0.2	0.3%	-0.3
3 四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	書くこと	記述	・	47.3%	≒	45.0%	◇
			無解答率→		9.1%	11.7%	-2.6	10.7%	-1.6
4 四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	読むこと	選択	・	38.8%	△	38.9%	△
			無解答率→		21.6%	20.7%	+0.9	18.6%	+3.0

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
1 一	「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する	単語の類別について理解しているかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	選択	○	67.3%	◆	70.2%	▼
			無解答率→		0.0%	0.2%	-0.2	0.3%	-0.3
3 一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	短答	・	37.5%	◆	39.8%	▼
			無解答率→		0.0%	0.2%	-0.2	0.3%	-0.3

上記問題以外で、無回答率が 10%以上になった問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
2 四	話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	記述	●	50.5%	≒	52.7%	◆
			無解答率→		15.9%	16.0%	-0.1	14.7%	+1.2
4 一	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	短答	・	36.7%	≒	35.2%	◇
			無解答率→		19.5%	20.4%	-0.9	19.8%	-0.3

＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。15 問中 12 問で全国平均より低いという取組状況でした。（平均 4.8%）

具体的な設問例　大問４四



〈例文１〉（擬態語を使っていない例文）
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文２〉（擬態語を使った例文）
「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。

条件①：〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件②：「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

正答例	「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。

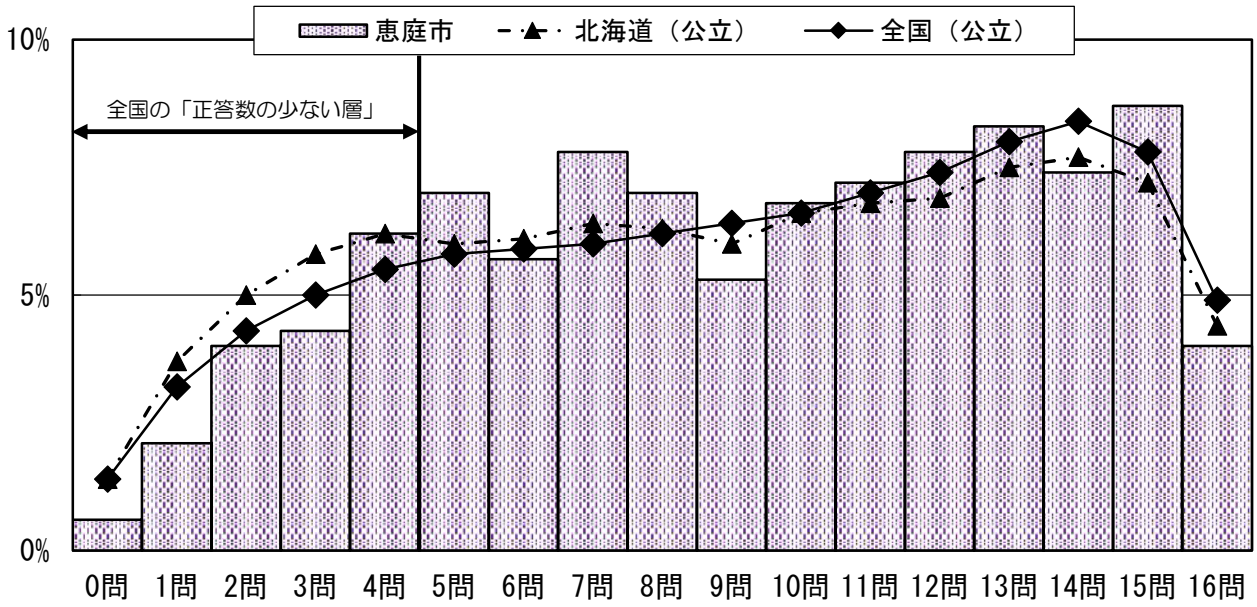
（4）中学校数学

【北海道平均正答率・全国平均正答率と恵庭市小学校平均正答率との比較】

教科	北海道(公立) 平均正答率	恵庭市 北海道との比較	全国(公立) 平均正答率	恵庭市 全国との比較
数学	55.0%	◇	57.0%	≒
	R7	◆	R7	◆
	R6	≒	R6	≒
	R5	≒	R5	◆

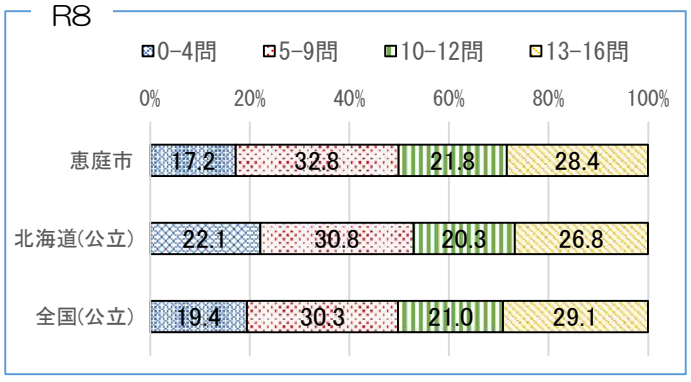
北海道、全国との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

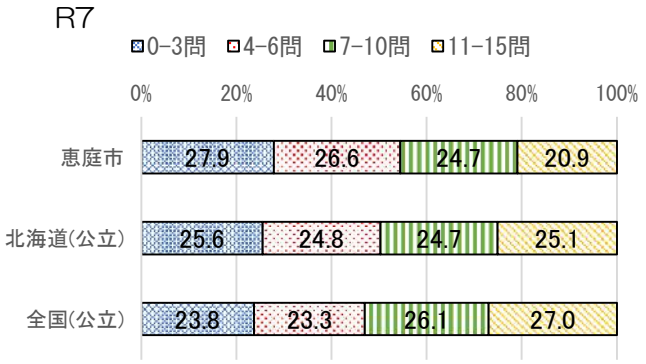
【正答数の分布状況】



※全国の「正答数の少ない層」→全国の「第１四分位」未満の正答数の範囲

■ 正答数ごとの層分布（全国四分位）





■ 平均正答率は、昨年度は、北海道、全国と比較して「◆やや下回る」という結果でしたが、今年度は、北海道を「やや上回る」、全国と「ほぼ同程度」という結果になりました。

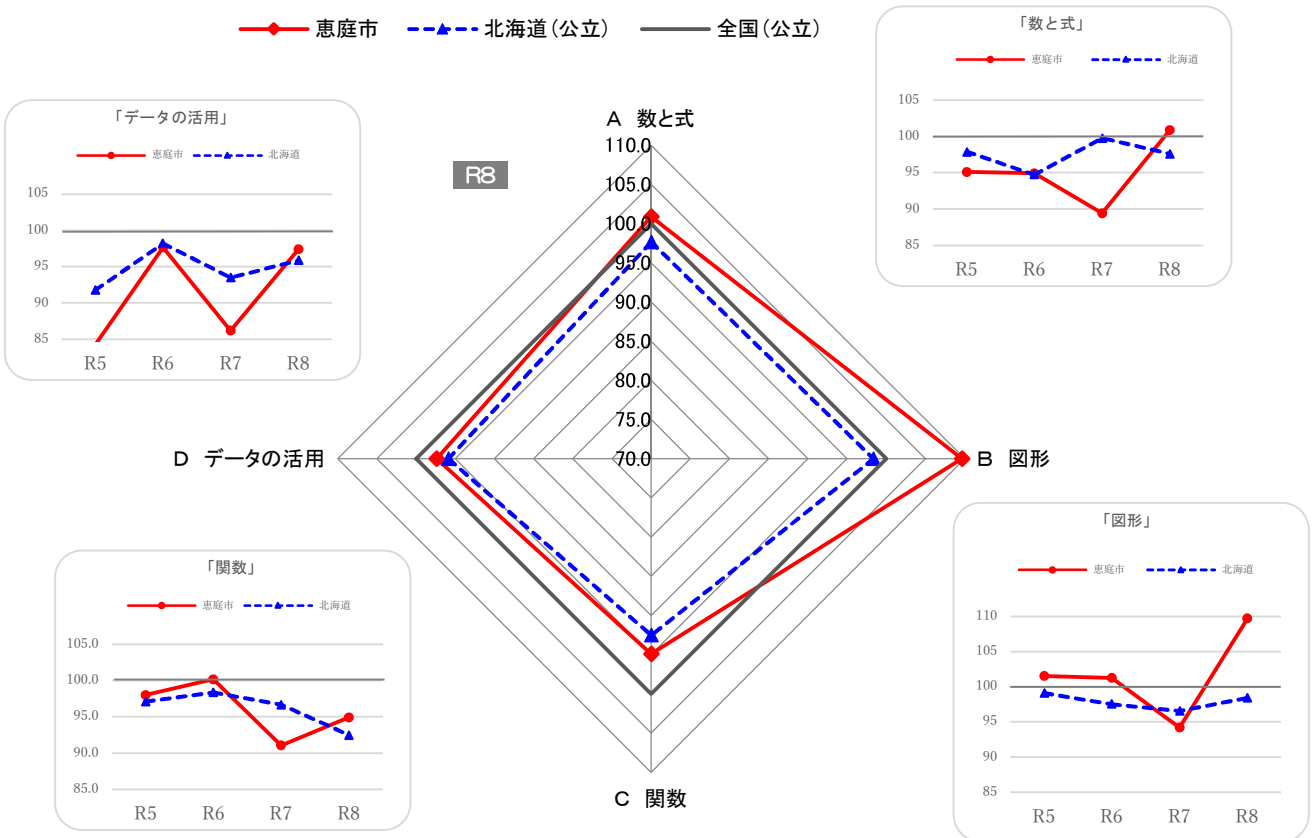
■ 正答数の少ない層の割合は、全国より 2.2%少なく、正答数の多い層の割合の全国差は、-0.7%となりました。

【学習指導要領の領域別、問題形式別の平均正答率の状況】　中学校数学

分類	区分	全16問	恵庭市平均正答率	北海道(公立)平均正答率	全道と市内の比較	R7全道比較	全国(公立)平均正答率	全国と市内の比較	R7全国比較
学習指導要領の領域	数と式	5	○	66.2%	◇	◆	67.8%	≒	◆
	図形	4	●	47.9%	△	≒	48.7%	◇	◆
	関数	3	●	50.7%	≒	◆	54.8%	◆	◆
	データの活用	4	●	51.3%	≒	◆	53.5%	≒	▼
評価の観点	知識・技能	12	○	60.9%	≒	◆	63.0%	≒	◆
	思考・判断・表現	4	•	37.3%	△	◆	39.1%	◇	▼
問題形式	選択式	3	●	58.0%	≒	≒	59.3%	≒	≒
	短答式	9	○	61.8%	◇	◆	64.2%	≒	▼
	記述式	4	•	37.3%	△	◆	39.1%	◇	▼

恵庭市の正答率　◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国,道との比較　△上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

全国比「全国平均正答率を100としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ



■「数と式」の正答率は、昨年度は、北海道、全国を「やや下回る」結果でしたが、今年度は、北海道を「やや上回る」、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「図形」の正答率は、昨年度は、北海道と「ほぼ同程度」、全国を「やや下回る」結果でしたが、今年度は、北海道を「上回る」、全国を「やや上回る」結果となりました。
■「関数」の正答率は、昨年度は、北海道、全国の正答率を「やや下回る」結果でしたが、今年度は、北海道と「ほぼ同程度」、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「データの活用」の正答率は、昨年度は、北海道を「やや下回る」、全国を「下回る」結果でしたが、今年度は、北海道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■記述式問題の正答率が、北海道を「上回る」、全国を「やや上回る」結果となりました。

【問題別集計結果】　中学校数学

恵庭市の正答率 ◎80%以上 ○60%～79% ●50%～59% ・49%以下　　道、国との比較 △上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
3	四角形ＰＱＲＳにおいて、ＰＳ平行ＱＲを示すための根拠となる二つの角を書く	２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる	図形	短答	●	50.5%	△	49.1%	△
			無解答率→		1.9%	3.0%	-1.1	2.8%	-0.9
8 (1)	∠ＡＯＢの大きさがａ°のとき、∠ＰＯＢの大きさをａを用いた式で書く	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	図形	短答	○	60.3%	△	62.5%	◇
			無解答率→		7.0%	10.4%	-3.4	9.0%	-2.0
8 (2)	図１において、ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰならば∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	図形	記述	●	45.1%	△	46.1%	△
			無解答率→		16.4%	25.1%	-8.7	22.2%	-5.8

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
4	反比例の表において、ｘの値が－３のときのｙの値を求める	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、ｘの値に対応するｙの値を求めることができるかどうかをみる	関数	短答	・	48.1%	◆	55.3%	▼
			無解答率→		0.2%	1.1%	-0.9	1.1%	-0.9
9 (1)	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から６時間以上７時間未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	データの活用	短答	・	44.2%	◆	46.0%	▼
			無解答率→		15.7%	16.7%	-1.0	14.3%	+1.4

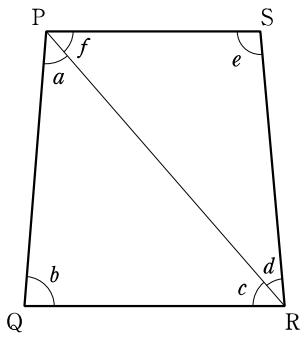
上記問題以外で、無解答率が 10%以上になった問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較
6 (3)	手順にしたがってできたＡとＢについて、Ａ－Ｂの値がどんな数になるかを、選んだ２数の差に着目して説明する	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	数と式	記述	・	41.5%	◇	44.6%	≒
			無解答率→		26.5%	29.9%	-3.4	26.5%	±0.0
7 (2)	データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	関数	記述	・	31.9%	◇	33.9%	≒
			無解答率→		40.8%	42.9%	-2.1	39.6%	+1.2
8 (2)	「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	データの活用	記述	・	30.7%	◇	31.9%	◇
			無解答率→		26.8%	33.2%	-6.4	28.9%	-2.1

＊「無解答率」とは、解答欄に何も書かなかった場合の割合。16 問中 12 問で全国平均より低くなっています。(平均 9.6%)。

具体的な設問例
大問３

3　下の図は、四角形ＰＱＲＳに対角線ＰＲをひいたものです。



正答	∠ｃ　　∠ｆ

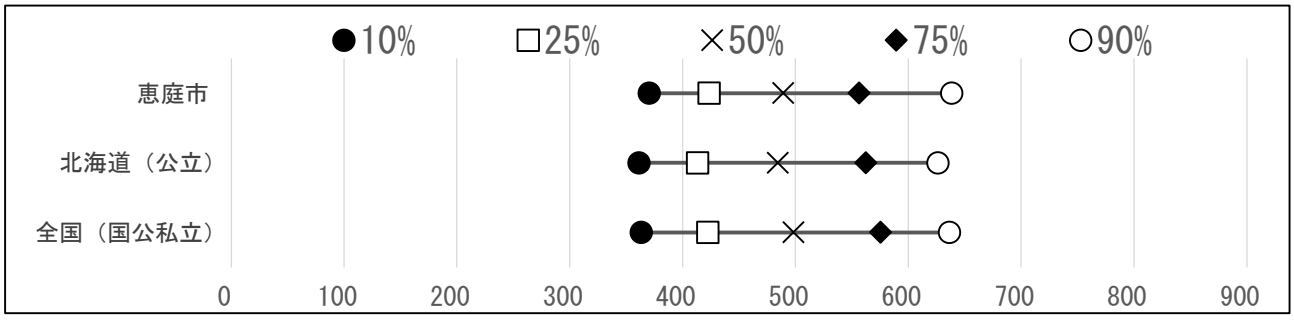
上の図において、∠aから∠fまでの６つの角のうち、ある２つの角の大きさが等しければ、ＰＳ // ＱＲであるといえます。その２つの角を書きなさい。

（5）中学校英語

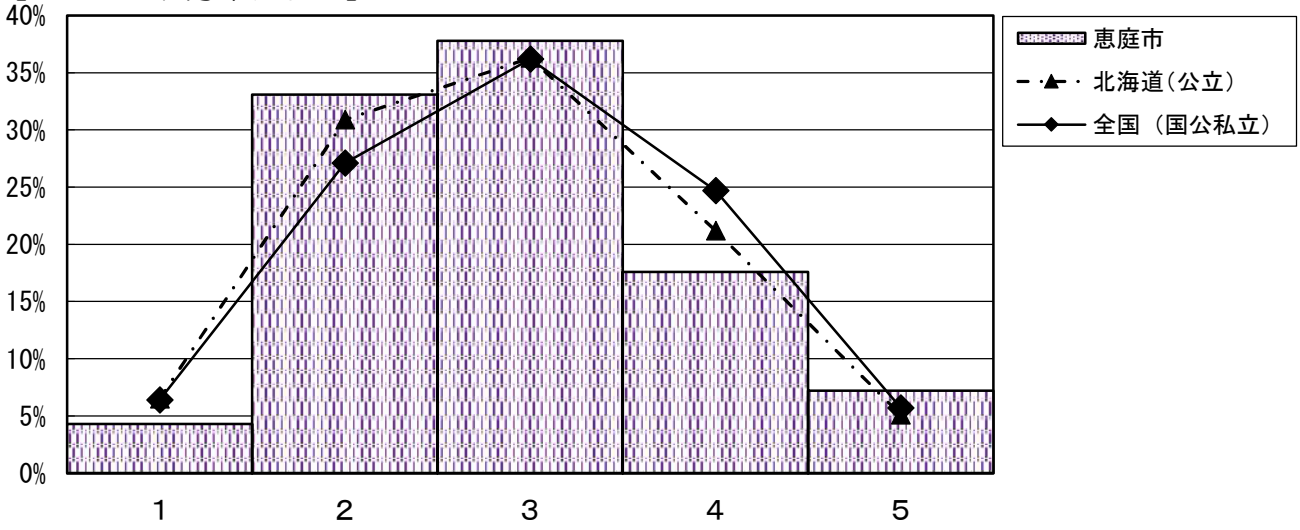
【IRT スコア・IRT バンド】

教科	恵庭市		北海道（公立）		全国（公立）	
英語	IRT スコア	IRT バンド	IRT スコア	IRT バンド	IRT スコア	IRT バンド
	496	3	490	3	499	3

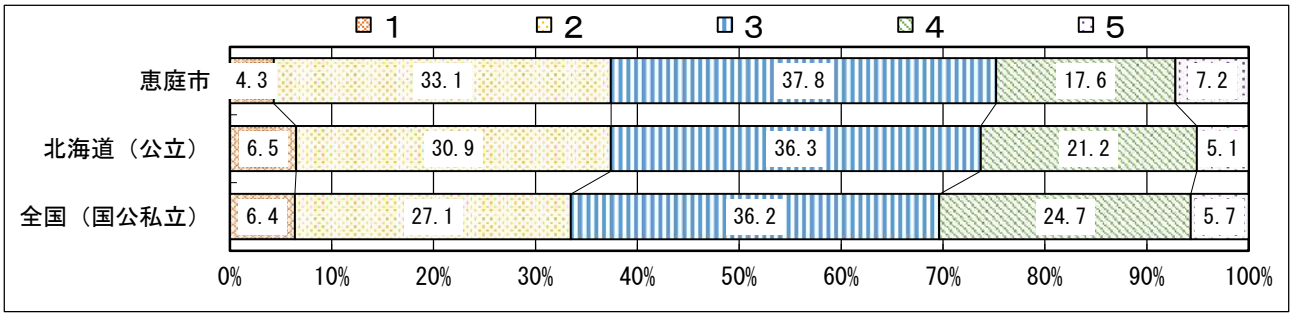
【IRT スコア分布グラフ】（パーセンタイル値：10%，25%，50%，75%，90%）



【IRT バンド分布グラフ】



【IRT バンド分布比較】



■ IRT スコアは、北海道を上回り、標準 500 を４ポイント下回る結果でした。
■ IRT バンドの分布は、全国と比較して１の段階が 2.2 ﾎﾟｲﾝﾄ低く、５の段階が 2.1 ﾎﾟｲﾝﾄ%高い結果となりました。

【学習指導要領の領域別の集計結果（公開問題のみ）】　中学校英語

◆公開問題のうち、全員が共通して取り組む問題（９問）の平均正答数

	聞くこと　２問	読むこと・書くこと　５問	話すこと　２問
恵庭市	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2
北海道（公立）	1.2 / 2	2.4 / 5	0.6 / 2
全国（国公私立）	1.2 / 2	2.6 / 5	0.7 / 2

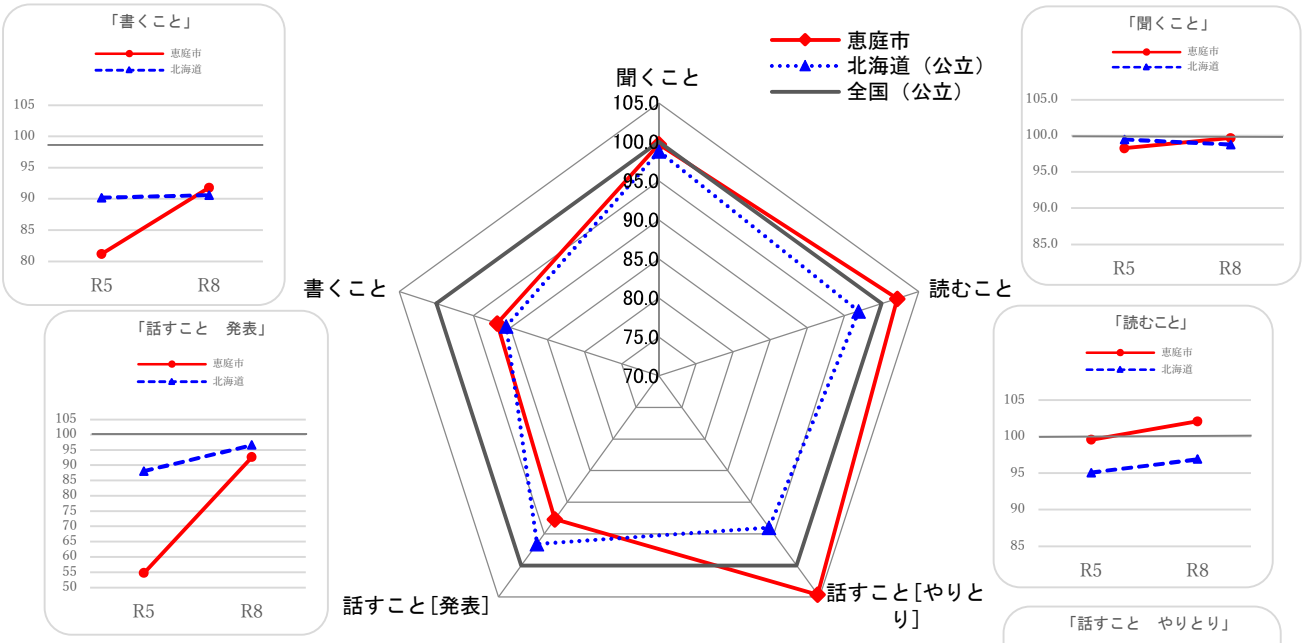
◆公開問題（２３問）領域別正答率

分類	区分	全23問	恵庭市平均正答率	北海道(公立)平均正答率	全道と市内の比較	全国(公立)平均正答率	全国と市内の比較
学習指導要領の領域	聞くこと	5	○	62.1	≒	62.8	≒
	読むこと	5	○	58.1	◇	60.0	≒
	話すこと（やりとり）	3	•	32.8	◇	34.9	≒
	話すこと（発表）	4	•	34.6	≒	35.8	◆
	書くこと	6	•	39.1	≒	43.1	◆

※公開問題のみ 23 問を領域ごとに集計、比較
※公開問題の中で、全員が共通して取り組む問題は９問（「聞くこと」２問、「読むこと」２問。「書くこと」３問、「話すこと」２問）
　一部の生徒が取り組む問題は５問（「聞くこと」３問中１問、「読むこと」３問中１問、「書くこと」３問中１問、「話すこと」５問中２問）
※非公開問題は、生徒一人「聞くこと」「読むこと」「書くこと」から 12 問、「読むこと」から数問、生徒ごとに異なる問題を解く。

恵庭市の正答率 ◎80%以上　○60%～79%　●50%～59%　・49%以下　　国、道との比較 △上回る　◇やや上回る　≒ほぼ同程度　◆やや下回る　▼下回る

全国比「全国平均正答率を 100 としたときの北海道、恵庭市の正答率の割合」で比較したグラフ　＊公開問題のみ



■「聞くこと」の正答率は、北海道、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「読むこと」の正答率は、北海道を「やや上回る」、全国と「ほぼ同程度」の結果となりました。
■「話すこと」の正答率は、［やりとり］問題は、北海道を「やや上回る」、全国と「ほぼ同程度」、［発表］問題は、全国を「やや下回る」結果となりました。
■「書くこと」の正答率は、全国を「やや下回る」結果となりました。

【問題別集計結果】　中学校英語　（公開問題 23 問）

恵庭市の正答率 ◎80%以上 ○60%～79% ●50%～59% ・49%以下　　道、国との比較 △上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、上回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較	難易度
8	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	読むこと	選択	○	59.8%	△	63.8%	◇	3
			無解答率→		0.0%	0.1%	-0.1	0.1%	-0.1	
15 (1)	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	話すこと［やりとり］※全員問題	記述／口述	・	40.4%	△	41.5%	△	5
			無解答率→		14.0%	13.5%	+0.5	9.2%	+4.8	

平均正答率が全国平均と比較して３ポイント以上、下回った問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較	難易度
11 ①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	書くこと	短答／口述	●	52.5%	≒	58.9%	◆	3
			無解答率→		1.3%	2.8%	-1.5	2.5%	-1.2	
11 ②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	書くこと	短答／口述	・	47.2%	≒	52.7%	▼	3
			無解答率→		1.5%	3.2%	-1.7	3.0%	-1.5	
12	中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	書くこと	記述／口述	・	43.5%	◆	47.5%	▼	4
			無解答率→		8.8%	10.3%	-1.5	8.7%	+0.1	
17	自分の好きな人物を １ 人取り上げ、好きな理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる	話すこと［発表］	記述／口述	・	44.6%	▼	45.7%	▼	4
			無解答率→		18.9%	16.7%	+2.2	12.1%	+6.8	
18	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる	話すこと［発表］	記述／口述	・	19.7%	◆	21.7%	◆	5
			無解答率→		21.1%	17.7%	+3.4	13.5%	+7.6	

上記問題以外で、無解答率が 10%以上になった問題

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域	形式	恵庭市正答率	北海道(公立)正答率	北海道との比較	全国(公立)正答率	全国との比較	難易度
10 (2)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	書くこと※全員問題	記述／口述	・	24.5%	◇	27.8%	≒	5
			無解答率→		14.9%	16.2%	-1.3	14.6%	+0.3	
14	学校で普段行うことを１つ取り上げ、それについての説明を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	書くこと	記述／口述	・	25.6%	≒	27.8%	◆	4
			無解答率→		12.6%	15.5%	-2.9	14.2%	-1.6	
19	学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる	話すこと［発表］※全員問題	記述／口述	・	22.3%	≒	23.0%	◆	5
			無解答率→		26.3%	24.2%	+2.1	17.0%	+9.3	

＊公開問題における無解答率は、「聞くこと」「読むこと」全問で全国より低い、または同じ。「書くこと」は１問を除き、全国より低い。「話すこと」は全問が全国より高いという取組状況でした。

具体的な設問例　12　書くこと

あなたは、中学生になってからの思い出(My Memory)を【英語新聞】にまとめることになりました。思い出を１つ取り上げ、「そこであなたが体験したこと」と「感想」を、15 語以上 30 語以内の英語で書きなさい。なお、思い出は下の【例】を参考にしてもかまいません。

【英語新聞】



【例】

- 学校行事
  - 文化祭(the school festival)
  - 体育祭(the sports festival)
  - 音楽祭(the music festival)
  - 修学旅行(the school trip)
  - 職場体験(the work experience)
- 授業
- 習い事
- 趣味
- 日常の出来事
- その他

【正答例】

We read books for 10 minutes in the morning every day. We can bring our favorite books to school. I like reading books very much.

具体的な設問例　15(1)　話すこと　※全員が取り組む問題

＜問題文＞

この問題は(１)と(２)の２問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話すところです。

(１) 吹き出しの中に示されているイラストを見て、サラに明日の天気を英語で伝えましょう。【解答時間 15 秒】



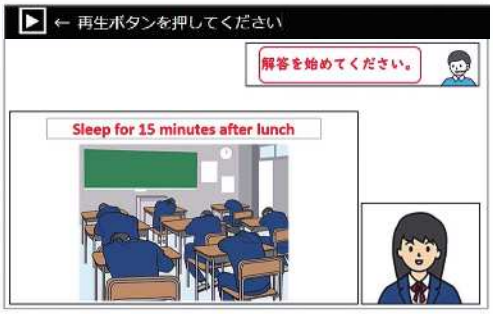
【正答例】

- It will be rainy tomorrow.　• It will rain tomorrow.　• Tomorrow will be rainy.
- It is rainy tomorrow.　• Tomorrow is rainy.

具体的な設問例　19　話すこと　※全員が取り組む問題

＜問題文＞

あなたは、英語の授業で、オンライン交流をしている中学生のかおりと「学校生活をよりよくする方法」について話し合っています。発表を聞き、かおりの意見に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で答えましょう。【考える時間１分　解答時間 30 秒】



At school, I often become sleepy in the afternoon. I think we should sleep for 15 minutes after lunch because we will feel better and can study harder later. Some classmates agree with my idea, but other classmates don't agree because they want to talk with their friends more.

My idea is we should sleep for 15 minutes after lunch. Do you think my idea is good? And why?

【正答例】

It's a good idea because many students will study harder if they sleep after lunch.

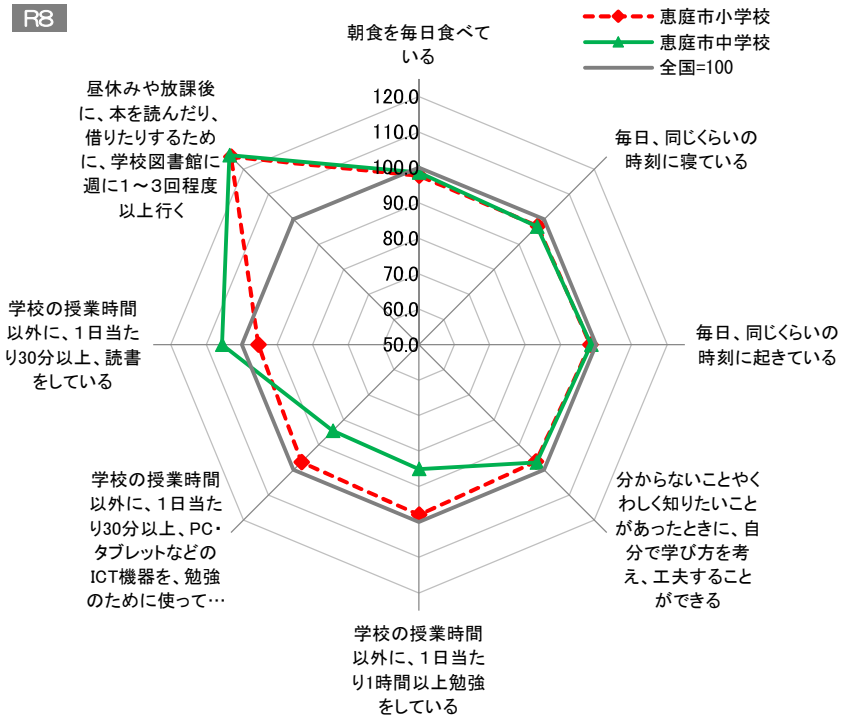
3. 質問調査〔生活習慣や学習習慣等に関する項目〕

(1) 児童生徒質問調査

(1)生活、学習、読書習慣の確立

	質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市の結果(%) R8	恵庭市の結果(%) R7	恵庭市の結果(%) R6	全国差 R8	全国差 R7
1	①	朝食を毎日食べている	「している」「どちらかといえば、している」	小6	91.1%	93.5%	90.5%	-2.2	-0.2
				中3	89.6%	90.9%	92.1%	-1.3	-0.3
2	②	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	「している」「どちらかといえば、している」	小6	80.6%	82.7%	78.5%	-2.2	+0.8
				中3	78.2%	78.6%	81.0%	-2.3	-2.4
3	③	毎日、同じくらいの時刻に起きている	「している」「どちらかといえば、している」	小6	89.2%	90.8%	89.6%	-1.5	-0.2
				中3	91.1%	93.6%	91.8%	-1.3	+1.0
4	㉒	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる	「できている」「どちらかといえば、できている」	小6	76.7%	77.3%	78.5%	-2.7	-4.4
				中3	75.9%	76.5%	76.8%	-2.3	-1.0
5	㉓	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している（学習塾，家庭教師，インターネットで学ぶ時間も含む）	「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」	小6	48.9%	44.5%	47.8%	-1.0	-9.5
				中3	52.4%	60.1%	57.0%	-9.2	-1.5
6	㉔	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり30分以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている	「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」	小6	33.5%	45.0%		-1.1	+2.5
				中3	25.3%	27.0%		-4.7	-4.6
7	㉖	学校の授業時間以外に、普段、1日当たり30分以上、読書をしている（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」	小6	24.9%	35.1%		-1.2	+4.0
				中3	19.0%	22.0%		+1.0	+0.6
8	㉗	昼休みや放課後に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館に週に1～3回程度以上行く	「だいたい週に4回以上行く」「週に1～3回程度行く」	小6	22.0%			+4.4	
				中3	9.8%			+2.0	
9	㉘	放課後や学校が休みの日に、本(同上)を読んだり、借りたりするために、地域の図書館(電子図書館を含む)に月に1～3回程度以上行く	「だいたい週に4回以上行く」「週に1～3回程度行く」「月に1～3回程度行く」	小6	16.2%			±0.0	
				中3	9.2%			+2.2	
10	㉙	家には、およそ100冊以上の本がある（雑誌、新聞、教科書は除く）	「101～200冊」「201～500冊」「501冊以上」	小6	26.3%	37.6%	38.6%	-4.4	+6.7
				中3	39.3%	36.8%	33.6%	+8.1	+9.6
11	㉚	新聞を週に1～3回程度以上読んでいる	「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」	小6	7.6%	6.3%	10.6%	-2.4	-4.2
				中3	7.5%	5.5%	6.7%	+1.3	-0.2

生活･学習･読書習慣の確立



●質問番号 23「学校の授業時間以外の勉強時間」

➢授業時間以外に1時間以上勉強していると回答した小6の割合は、令和7年度と比べて 4.4 ポイント高くなっている。中3は、昨年度と比べて 7.7 ポイント下がり、全国と比較して 9.2 ポイント低くなっている。

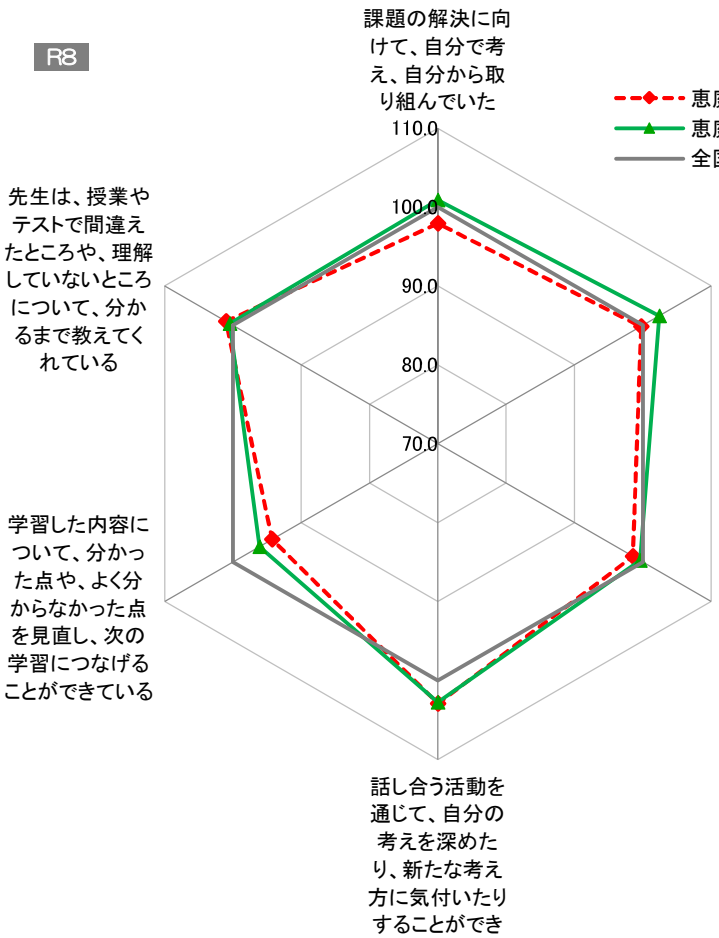
●質問番号 27「学校図書館の活用」

➢休み時間や放課後、学校図書館に週1～3 回程度以上行くと回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小6で 4.4 ポイント、中3で 2.0 ポイント高くなっている。

(2)主体的・対話的で深い学び

	質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市の結果(%)			全国差	
					R8	R7	R6	R8	R7
1	㊳	授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」	小6	68.0%	69.3%	64.1%	+1.6	+0.7
				中3	66.5%	63.9%	59.4%	+1.0	+0.9
2	㊴	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	76.0%	76.1%	81.0%	-1.6	-4.2
				中3	79.5%	78.4%	80.5%	+0.7	+0.7
3	㊵	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	73.2%	74.4%	78.6%	-0.2	-3.4
				中3	72.5%	71.6%	75.8%	+1.7	+1.0
4	㊶	授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	79.6%	79.4%	84.6%	-1.2	-4.0
				中3	78.6%	76.0%	80.8%	-0.3	-3.3
5	㊷	学級の友達/生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	88.2%	82.1%	86.5%	+2.5	-2.8
				中3	89.4%	84.2%	86.8%	+2.4	-0.5
6	㊸	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	73.9%	73.4%	75.9%	-4.5	-6.0
				中3	75.9%	67.8%	76.1%	-3.1	-5.6
7	㊹	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	79.3%	81.0%	82.4%	-1.5	-1.5
				中3	77.4%	75.2%	78.7%	-0.6	+0.4
8	㊺	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	88.2%	87.4%	87.2%	+0.9	±0.0
				中3	85.6%	82.0%	86.0%	+0.4	-1.8
9	㊻	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	90.0%	90.2%	90.7%	-1.4	-1.7
				中3	92.1%	91.3%	93.5%	-0.3	-0.6

主体的･対話的で深い学びの実現



● 質問番号 42「話し合う活動で考えを深める、広げる」

➢ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和７年度と比べて、小６で 6.1 ポイント、中３で 5.2 ポイント増え、全国と比べて、小学校で 2.5 ポイント、中学校で 2.4 ポイント高くなっている。

● 質問番号 43「分かった点や分からなかった点を見直し、次につなげる」

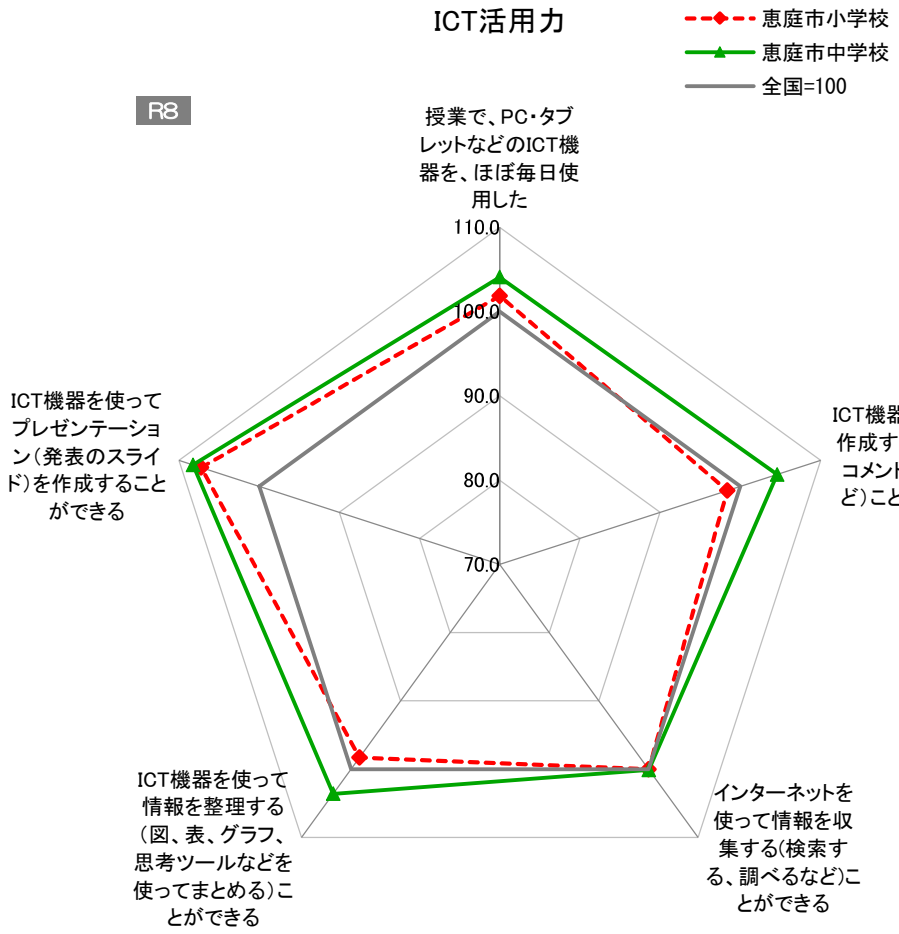
➢ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和７年度と比べて、小６で 0.5 ポイント、中３で 8.1 ポイント高くなり、全国との差も縮まっている。

● 質問番号 45「先生はわかるまで教えてくれる」

➢ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和７年度と比べて、小６で 0.8 ポイント、中３で 3.6 ポイント高くなり、全国の数値を上回った。

(2)ICT を活用した学習状況

	質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市の結果(%)			全国差	
					R8	R7	R6	R8	R7
1	㉟	5年生までに/1.2 年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、ほぼ毎日使用した	「ほぼ毎日(複数の授業で)」「ほぼ毎日(1日1回くらいの授業で)」 ※R6は「ほぼ毎日」のみ	小6	43.8%	46.7%	16.9%	+0.8	±0.0
				中3	56.5%	56.2%	48.9%	+1.4	+3.0
2	㊱1	ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小6	77.8%	82.7%		-1.3	+0.9
				中3	88.7%	88.2%		+3.9	+4.6
3	㊱2	インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができる	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小6	84.9%	89.4%		±0.0	-0.4
				中3	91.0%	93.0%		+0.1	+1.5
4	㊱3	ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小6	68.2%	66.4%		-1.3	-2.9
				中3	71.9%	67.1%		+2.5	+3.8
5	㊱4	ICT 機器を使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小6	80.0%	85.1%		+5.4	+8.4
				中3	86.6%	85.7%		+6.6	+9.1



●質問番号 35「ICT 使用頻度」

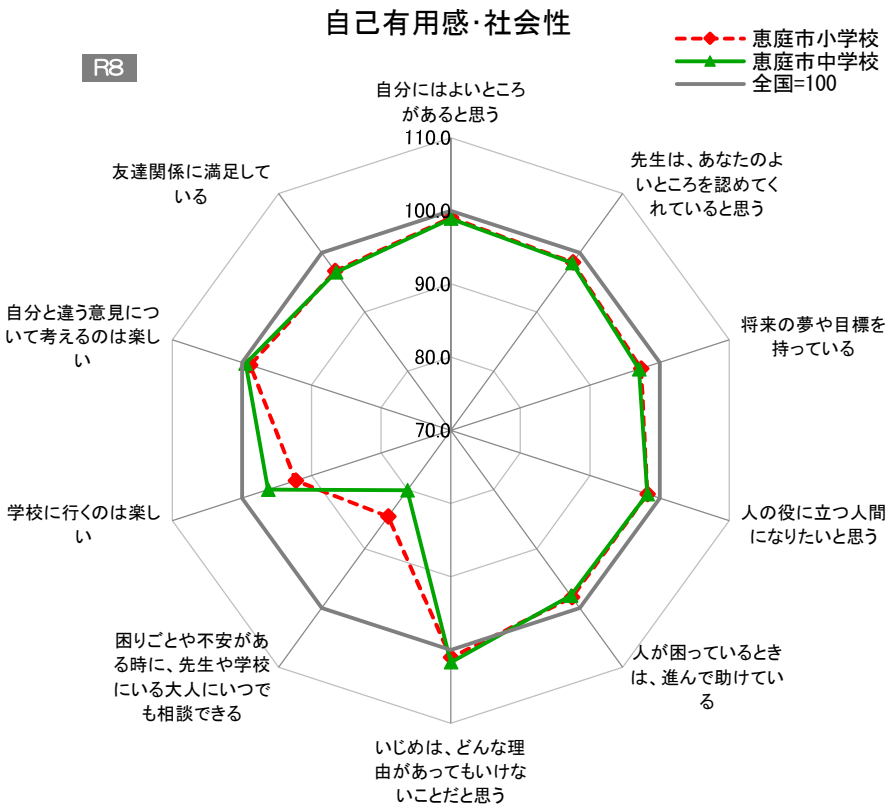
➢「ほぼ毎日(複数授業で)」「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業で)」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小6で 0.8 ポイント、中3で 1.4 ポイント高い。

●質問番号 36-2,3,4「情報の収集・整理・活用」

➢情報を収集、整理する力について「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答している児童生徒の割合は、全国とほぼ同程度。プレゼンテーションを作成して表現する力については、全国と比べて、小学校で 5.4 ポイント、中学校で 6.6 ポイント高い。

(4)ウェルビーイングの向上（自己有用感・社会性）

	質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市の結果(%) R8	恵庭市の結果(%) R7	恵庭市の結果(%) R6	全国差 R8	全国差 R7
1	⑧	自分にはよいところがあると思う	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	81.6%	85.5%	82.7%	-4.0	-0.4
				中3	83.1%	85.5%	83.0%	-0.9	-0.7
2	⑨	先生は､自分のよいところを認めてくれていると思う	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	89.9%	91.8%	87.4%	-1.5	-0.4
				中3	89.3%	89.6%	91.9%	-1.6	-2.6
3	⑩	将来の夢や目標を持っている	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	79.6%	86.1%	81.5%	-2.2	+3.0
				中3	65.6%	64.3%	64.3%	-2.0	-3.2
4	⑭	人の役に立つ人間になりたいと思う	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	94.5%	97.1%	96.8%	-1.2	+0.7
				中3	94.2%	95.5%	94.2%	-1.7	-1.1
5	⑪	人が困っているときは、進んで助けている	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	91.0%	90.4%	89.7%	-1.7	-3.3
				中3	88.9%	89.5%	86.0%	-1.9	-1.4
6	⑫	いじめは､どんな理由があってもいけないことだと思う	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	97.2%	96.9%	97.1%	+1.0	-0.3
				中3	96.8%	95.9%	97.2%	+1.7	±0.0
7	⑬	困りごとや不安がある時に､先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	59.7%	64.6%	59.0%	-10.9	-6.0
				中3	57.6%	64.7%	59.5%	-14.3	-8.5
8	⑮	学校に行くのは楽しい	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	79.1%	80.7%	79.9%	-6.6	-5.8
				中3	82.2%	81.0%	76.4%	-3.2	-5.1
9	⑯	自分と違う意見について考えるのは楽しい	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	77.0%	72.0%	72.0%	-0.9	-6.1
				中3	78.2%	76.6%	74.7%	-0.4	-2.6
10	⑰	友達関係に満足している	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	88.3%	89.5%	87.2%	-2.8	-2.2
				中3	88.2%	88.0%	87.5%	-3.0	-3.4



●質問番号 16「自分と違う意見について考えるのは楽しい」

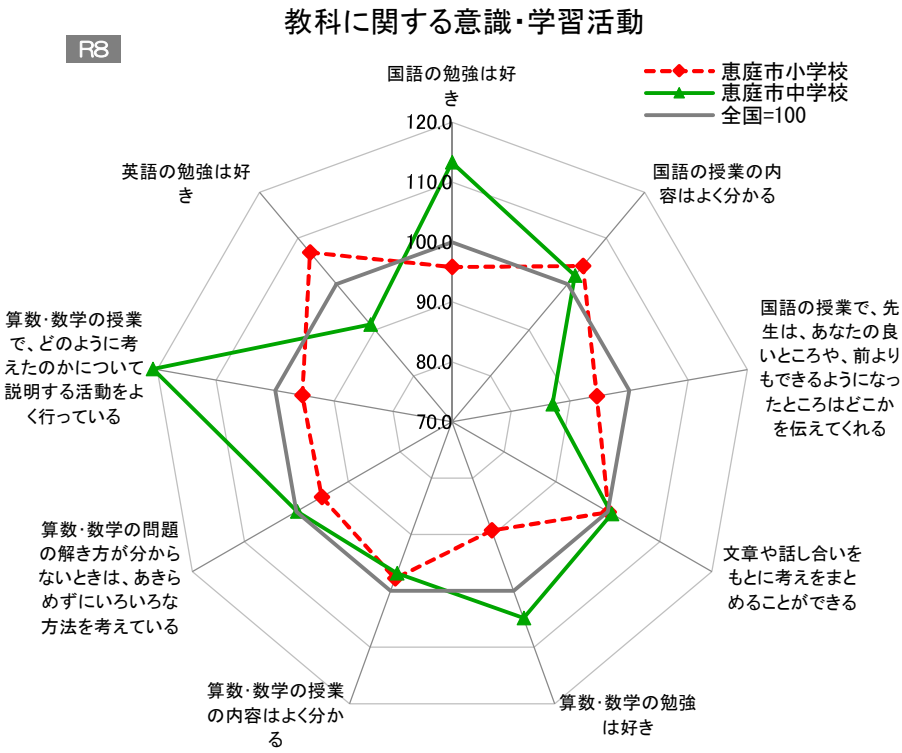
➢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和７年度と比べて、小６で 5.0 ﾎﾟｲﾝﾄ、中３で 1.6 ﾎﾟｲﾝﾄ高い。全国と比べると、小学校で 0.9 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 0.4 ﾎﾟｲﾝﾄ低くなっている。

●質問番号 13「困りごとや不安があるときに相談できる」

➢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 4.9 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 7.1 ﾎﾟｲﾝﾄ低い。全国と比べて、小学校で 10.9 ﾎﾟｲﾝﾄ、中学校で 14.3 ﾎﾟｲﾝﾄ低くなっている。

(5)ウェルビーイングの向上（教科に関する意識・学習活動）

	質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市の結果(%) R8	恵庭市の結果(%) R7	恵庭市の結果(%) R6	全国差 R8	全国差 R7
1	53	国語の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	55.0%	58.6%	57.6%	-2.4	+0.3
				中3	64.8%	66.3%	67.9%	+7.6	+8.4
2	54	国語の授業の内容はよく分かる	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	84.7%	84.6%	85.7%	+3.2	+1.8
				中3	78.2%	81.0%	88.1%	+1.4	+4.0
3	56	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	73.8%	74.7%		-4.3	-3.5
				中3	63.5%	74.2%		-9.5	+1.3
4	59	国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	78.4%			+0.1	
	58	国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	中3	85.4%			+0.6	
5	61	算数･数学の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	51.4%	52.4%	55.5%	-6.2	-5.5
				中3	58.8%	50.2%	46.2%	+2.7	-3.6
6	62	算数･数学の授業の内容はよく分かる	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	75.8%	78.0%	81.0%	-1.7	-0.3
				中3	71.9%	59.2%	72.1%	-2.3	-11.1
7	65	算数･数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	77.7%	78.9%	82.3%	-4.0	-3.4
				中3	77.7%	71.2%	73.6%	-0.1	-5.0
8	66	算数･数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	60.1%	61.3%		-2.9	-4.2
				中3	72.9%	50.2%		+12.5	-8.4
9	70	英語の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6	71.3%			+4.6	
				中3	46.7%			-4.5	
10	71	英語の授業の内容はよく分かる	「当てはまる」「どちらかといえば､当てはまる」	小6					
				中3	56.2%			-8.0	



●質問番号 61「算数・数学の勉強が好き」

➢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和7年度と比べて、小学校で 1.0 ポイント低く、中学校は 8.6 ポイント高くなり、全国を上回った。

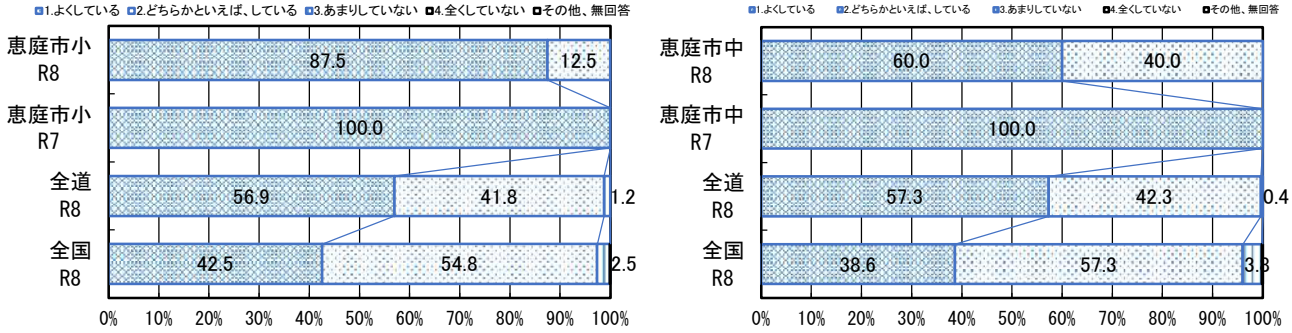
●質問番号 66「算数・数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」

➢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和7年度と比べて、小学校は 1.2 ポイント低くなり、中学校は 22.7 ポイント高くなった。

（2） 学校質問調査

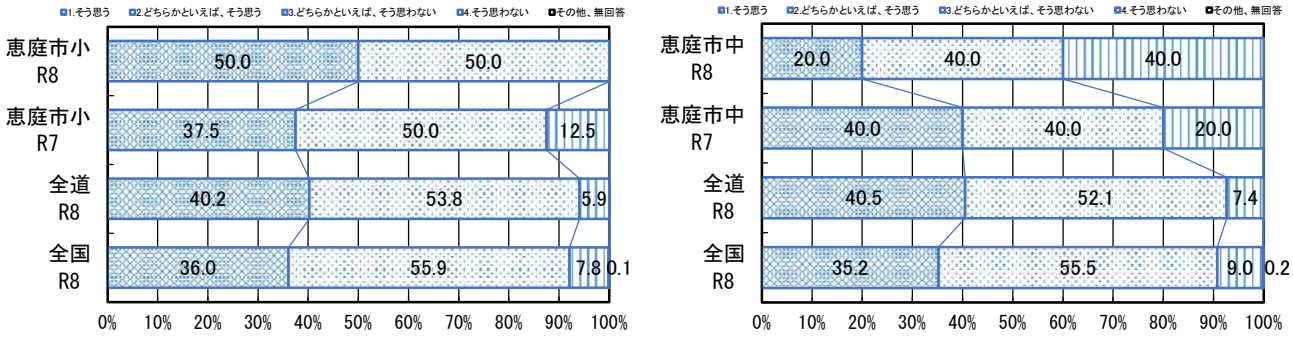
【検証改善サイクルの確立】

① 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立していますか　（質問番号 17）



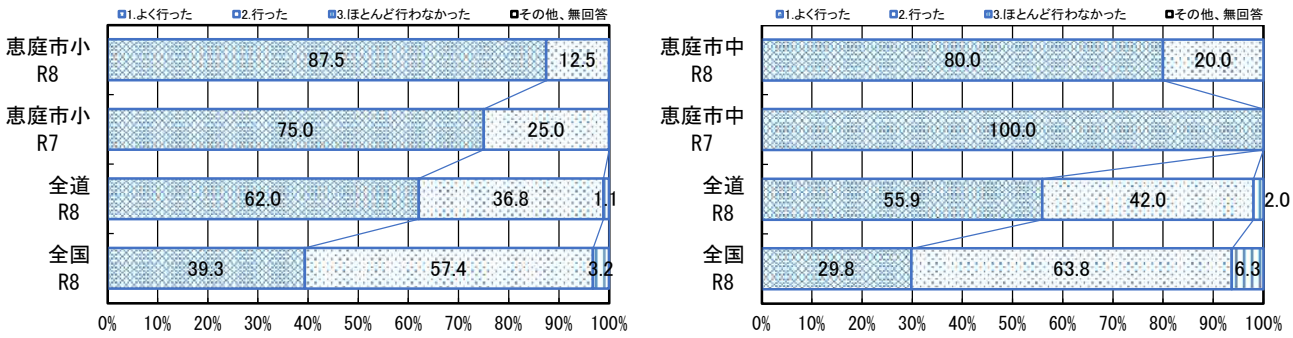
■ 「よくしている」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 12.5 ポイント低く、中学校で 40 ポイント低い。
全国と比べて、小学校で 45.0 ポイント高く、中学校で 21.4 ポイント高い。

② 今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか　（質問番号 20）



■ 「そう思う」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 12.5 ポイント高く、中学校で 20 ポイント低い。
全国と比べて、小学校で 14 ポイント高く、中学校で 15.2 ポイント低い。

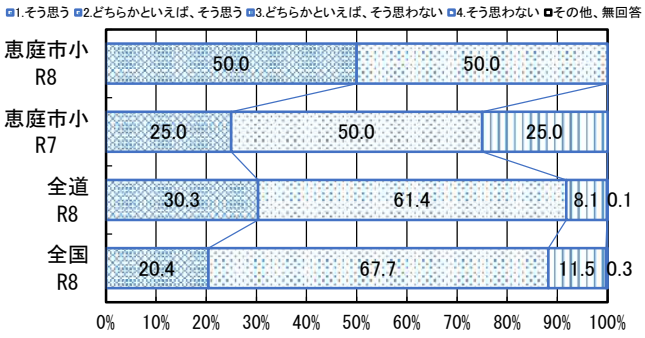
③ 令和７年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか　（質問番号 84・92）

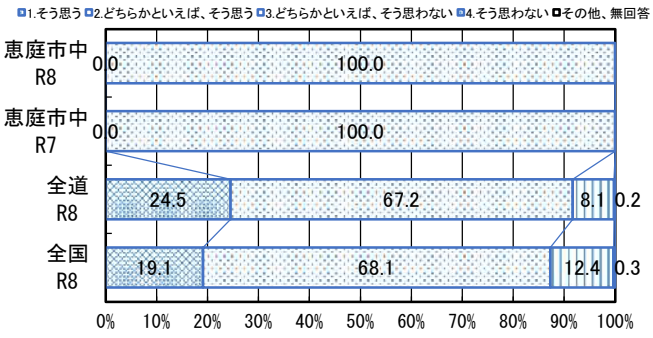


■ 「よく行った」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 12.5 ポイント高く、中学校で 20 ポイント低い。
全国と比べて、小学校で 48.2 ポイント高く、中学校で 50.2 ポイント高い。

【主体的･対話的で深い学びの実現】

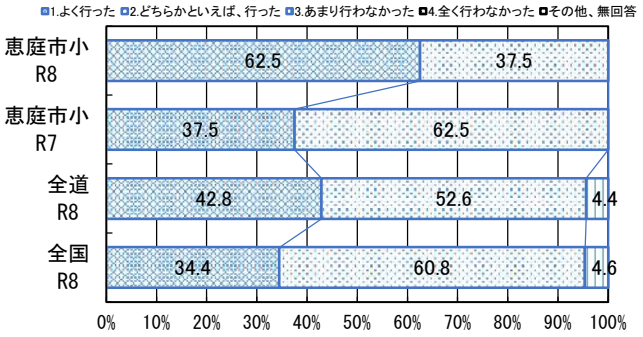
④ 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか　（質問番号 26）

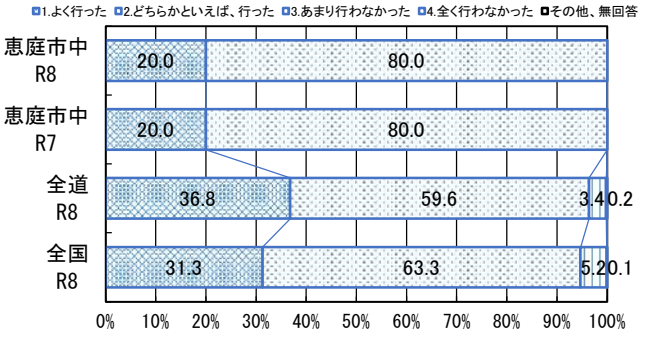




■ 「そう思う」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 25 ポイント高く、中学校で同じ。
全国と比べて、小学校で 29.6 ポイント高く、中学校で 19.1 ポイント低い。

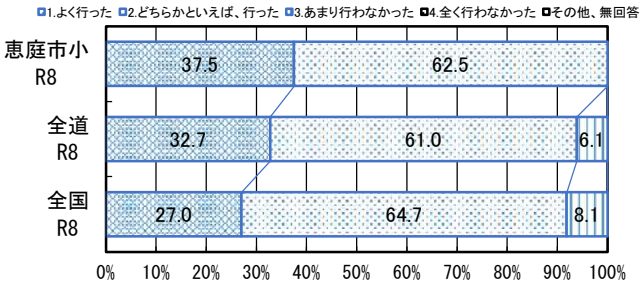
⑤ 学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか　（質問番号 32）

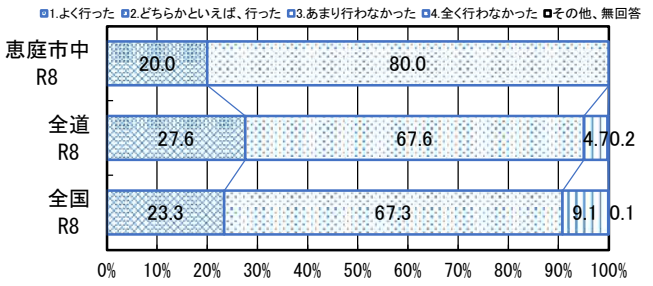




■ 「よく行った」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 25.0 ポイント高く、中学校で同じ。
全国と比べて、小学校で 28.1 ポイント高く、中学校で 11.3 ポイント低い。

⑥ 関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連づける学習指導を行いましたか　（質問番号 35）

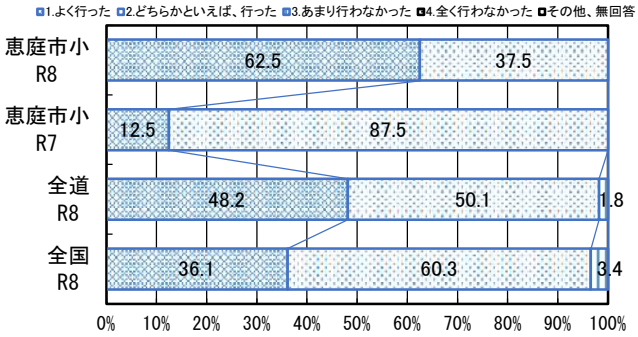


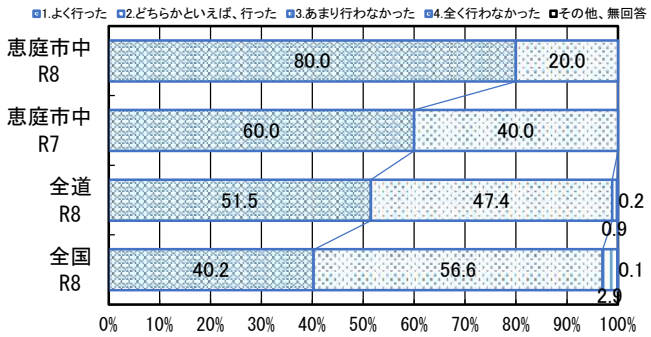


■ 「よく行った」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校で 10.5 ポイント高く、中学校で 3.3 ポイント低い。

【各教科の指導---国語、算数･数学】

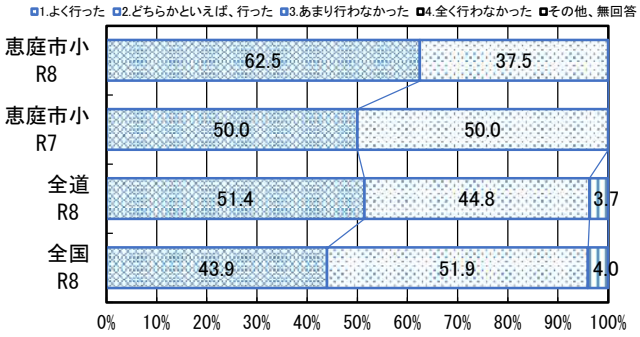
⑦ 国語の授業で、学習状況に即して児童生徒のよい点や進捗の状況を積極的に伝えることを行いましたか
（質問番号 45）

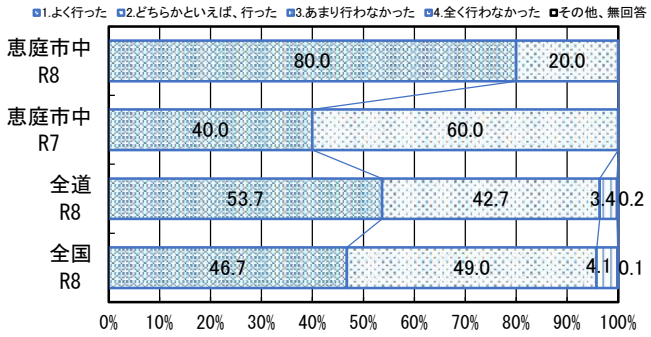




■ 「よく行った」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 50 ポイント高く、中学校で 20 ポイント高い。
全国と比べて、小学校で 26.4 ポイント高く、中学校で 39.8 ポイント高い。

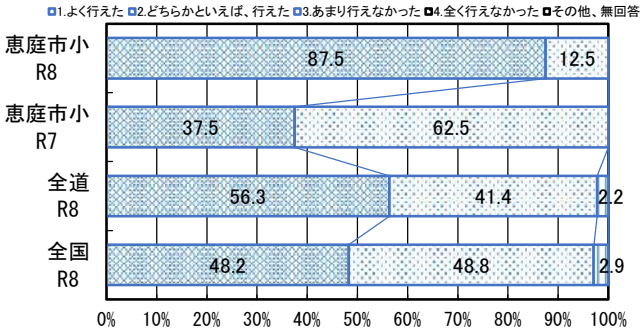
⑧ 算数/数学の授業で、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか
（質問番号 51）

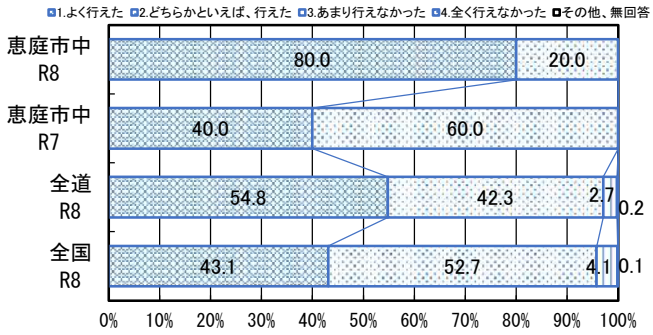




■ 「よく行った」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 12.5 ポイント高く、中学校で 40.0 ポイント高い。
全国と比べて、小学校で 18.6 ポイント高く、中学校で 33.3 ポイント高い。

⑨ 算数・数学の授業で、学習上つまずいた児童生徒に対する対応を行えていましたか
（質問番号 52）

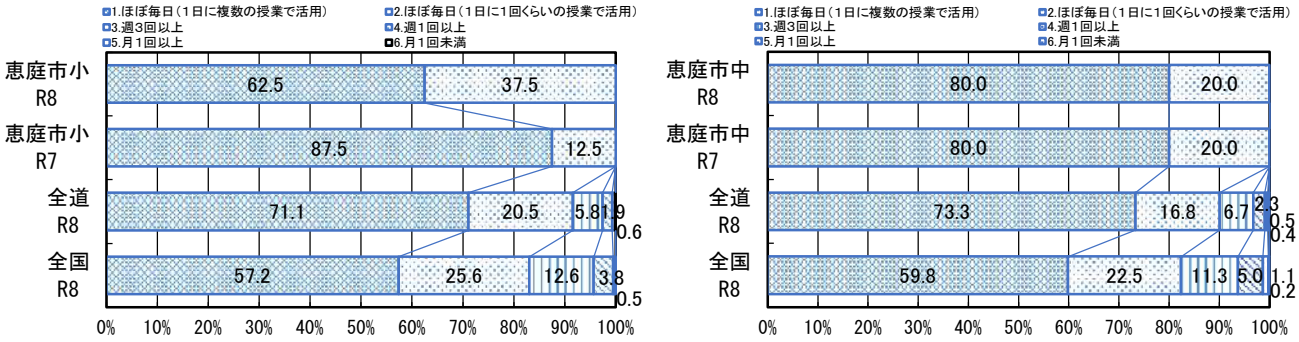




■ 「よく行った」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 50.0 ポイント高く、中学校で 40.0 ポイント高い。
全国と比べて、小学校で 39.3 ポイント高く、中学校で 36.9 ポイント高い。

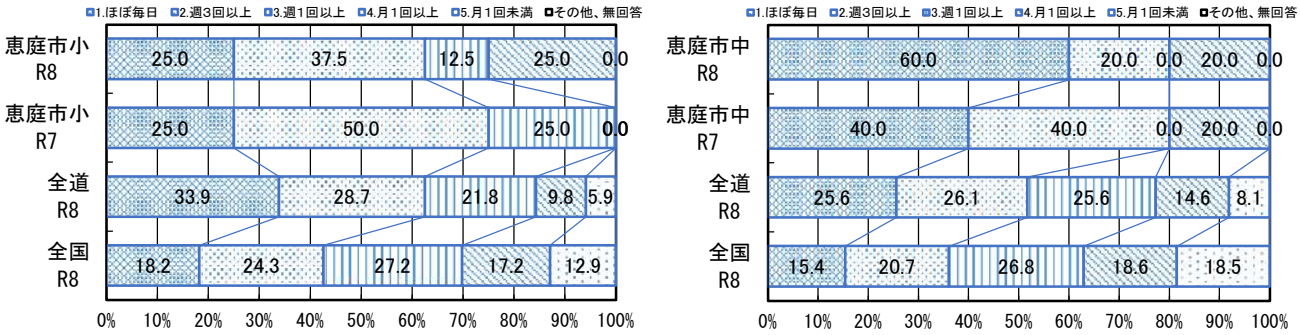
【ICT 機器の効果的な活用】

⑩ 児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか
（質問番号 60・68）



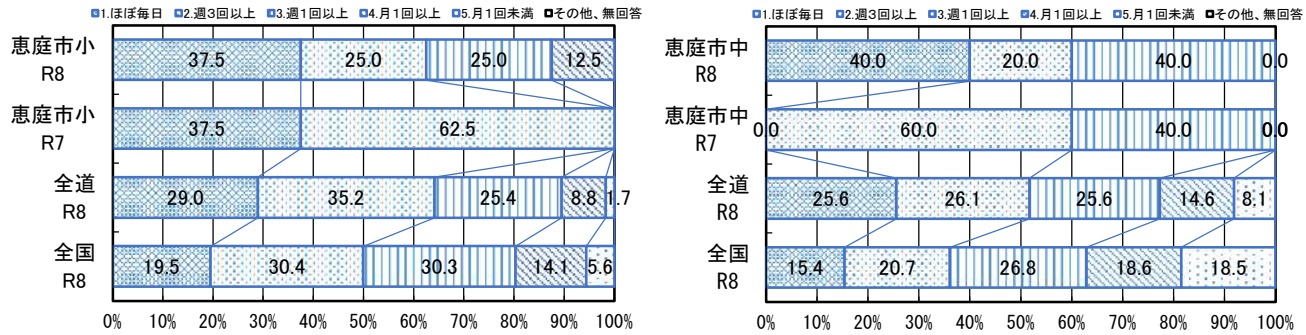
■ 「ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 25.0 ポイント低く、中学校で同じ。
全国と比べて、小学校で 5.3 ポイント高く、中学校で 20.2 ポイント高い。

⑪ 児童生徒同士がやりとりする場面では、ICT 機器をどの程度活用させていますか
（質問番号 64・72）



■ 「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で同じ、中学校で 20.0 ポイント高い。
全国と比べて、小学校で 6.8 ポイント高く、中学校で 44.6 ポイント高い。

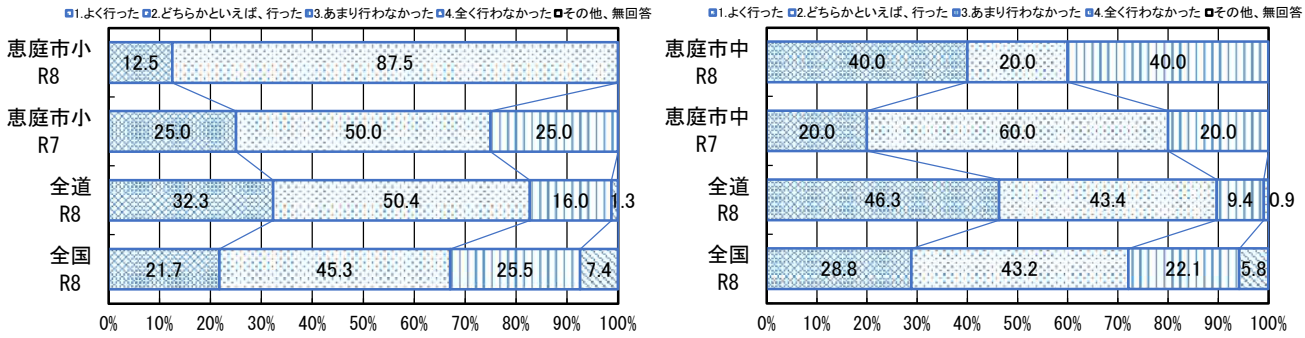
⑫ 児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、ICT 機器をどの程度活用させていますか
（質問番号 65・73）



■ 「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で同じ、中学校で 40.0 ポイント高い。
全国と比べて、小学校で 18.0 ポイント高く、中学校で 24.6 ポイント高い。

【小中連携・小中一貫教育の推進】

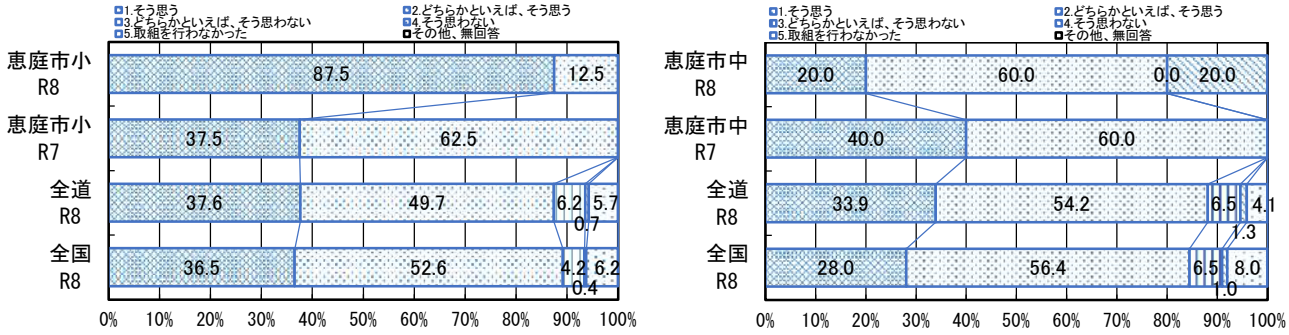
⑬ 近隣等の小学校/中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか　（質問番号 76•84）



■ 「よく行った」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 12.5 ポイント低く、中学校で 20 ポイント高い。
全国と比べて、小学校で 9.2 ポイント低く、中学校で 11.2 ポイント高い。

【家庭や地域との連携】

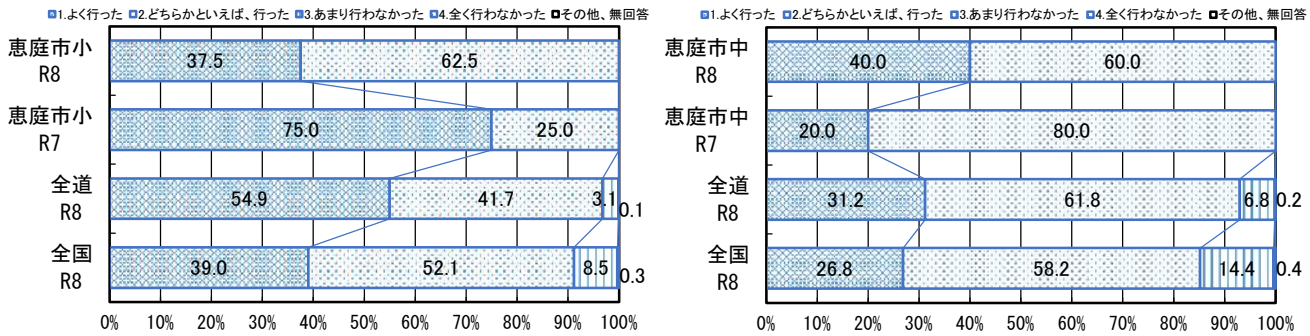
⑭ コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか　（質問番号 79•87）



■ 「そう思う」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 50.0 ポイント高く、中学校で 20.0 ポイント低い。
全国と比べて、小学校で 51.0 ポイント高く、中学校で 8.0 ポイント低い。

【学習習慣の確立】

⑮ 家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか　（質問番号 82•90）



■ 「よく行った」と回答した学校の割合は、令和７年度と比べて、小学校で 37.5 ポイント低く、中学校で 20 ポイント高い。
全国と比べて、小学校で 1.5 ポイント低く、中学校でポイント 20.0 ポイント高い。

総　評

1. 学力について

⑴ 小学校「教科に関する調査」から

□国語の平均正答率は、北海道、全国と比較してほぼ同程度の結果となりました。「読むこと」に関する問題の正答率が北海道をやや上回っています。

□算数の平均正答率は、北海道とほぼ同程度、全国をやや下回っていますが、差は縮小しました。昨年度、全国を下回っていた「図形」「測定」は、やや下回るという結果になりました。

⑵ 中学校「教科に関する調査」から

□国語の平均正答率は、昨年度は、北海道、全国をやや下回りましたが、今年度は、ほぼ同程度の結果となりました。「書くこと」「読むこと」の正答率が、全国をやや上回る結果となりました。

□数学の平均正答率は、昨年度は、北海道、全国をやや下回りましたが、今年度は、北海道をやや上回り、全国とほぼ同程度の結果になりました。「図形」の領域が全国をやや上回り、「数と式」「「データの活用」が全国とほぼ同程度で昨年度より向上しました。

□英語の IRT スコアは、北海道を上回り、全国と３ポイント差でした。公開問題の「書くこと」「読むこと」「話すこと[やりとり]」の正答率は、全国とほぼ同程度、「話すこと[発表]」「書くこと」が全国をやや下回りました。

2. 授業改善の取組について

□対話を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができると回答した児童生徒は全国平均をやや上回りました。学んだことを振り返り、次につなげることができるは、全国をやや下回っていますが、昨年度より割合が増えています。友達の考えと比較・関連・統合する、知識を相互に関連付ける、深い学びの実装を目指した授業改善を進めていきます。

□ICT 機器をほぼ毎日使用したと回答した児童生徒の割合は、全国をやや上回っています。ICT 機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高いという結果も出ています。引き続き、教師と児童生徒や児童生徒同士がやりとりする場面、理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面での効果的な活用を進めていきます。

□算数・数学の授業で、どのように考えたのか説明する活動をよく行っていたという回答した児童生徒は、中学校で全国を大きく上回りました。学校質問でも同様の結果が表れており、単に答えを求めるだけではなく、自分の考えを根拠をもとに論理的に説明する活動が正答率の向上にもつながったと考えられます。

□１日当たり１時間以上家庭学習すると回答した児童生徒は、小中ともに約５０％ですが、全国平均との差は中学校で広がっています。授業と連動した課題、一人一人の学習状況に応じた課題（AI ドリルの活用）など、児童生徒が自ら学習に取り組む手立てを学校全体で検討し、家庭と連携した取組を進めていくことが必要です。